顧問　大隈重信　會長　島田三郎
同　森村市左衛門　副會長　安部磯雄

廓清

第五卷　第壹號

大正四年一月十五日發行（明治四十四年八月二十日第三種郵便物認可）
（每月一回十五日發行）

■年頭の覺悟
□大正三年の回顧……島田三郎
■精神の活用を廣くせよ……綱島佳吉
□前後顛倒せる風俗論……加藤弘之
■滿洲廓清の烽火揚がる……支部報告
□新年と修養……山室軍平
■暴戻なる中野警察……立石芳松
□醫學上より觀たる絶娼論……富士川游
■生れ月と容貌性格……白萩子
□大正四年を迎へて……宮田修
□遊女考……伊藤江南
■名流の年齡……XY
□形式生活より內容充實へ……三輪田元道
■隔離制度の弊害(英文)……シールド
□新年號の盛裝……諸名家
▲宗教▲婦人問題▲哲學科學▲社會▲家庭と修養▲お正月▲談叢

東京　日本廓清會本部　發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

聖翼の下、愛兄姉の
幸多き新年を壽ぎ申候
尚ほ本年も不相變御贔負お引立の程奉冀候

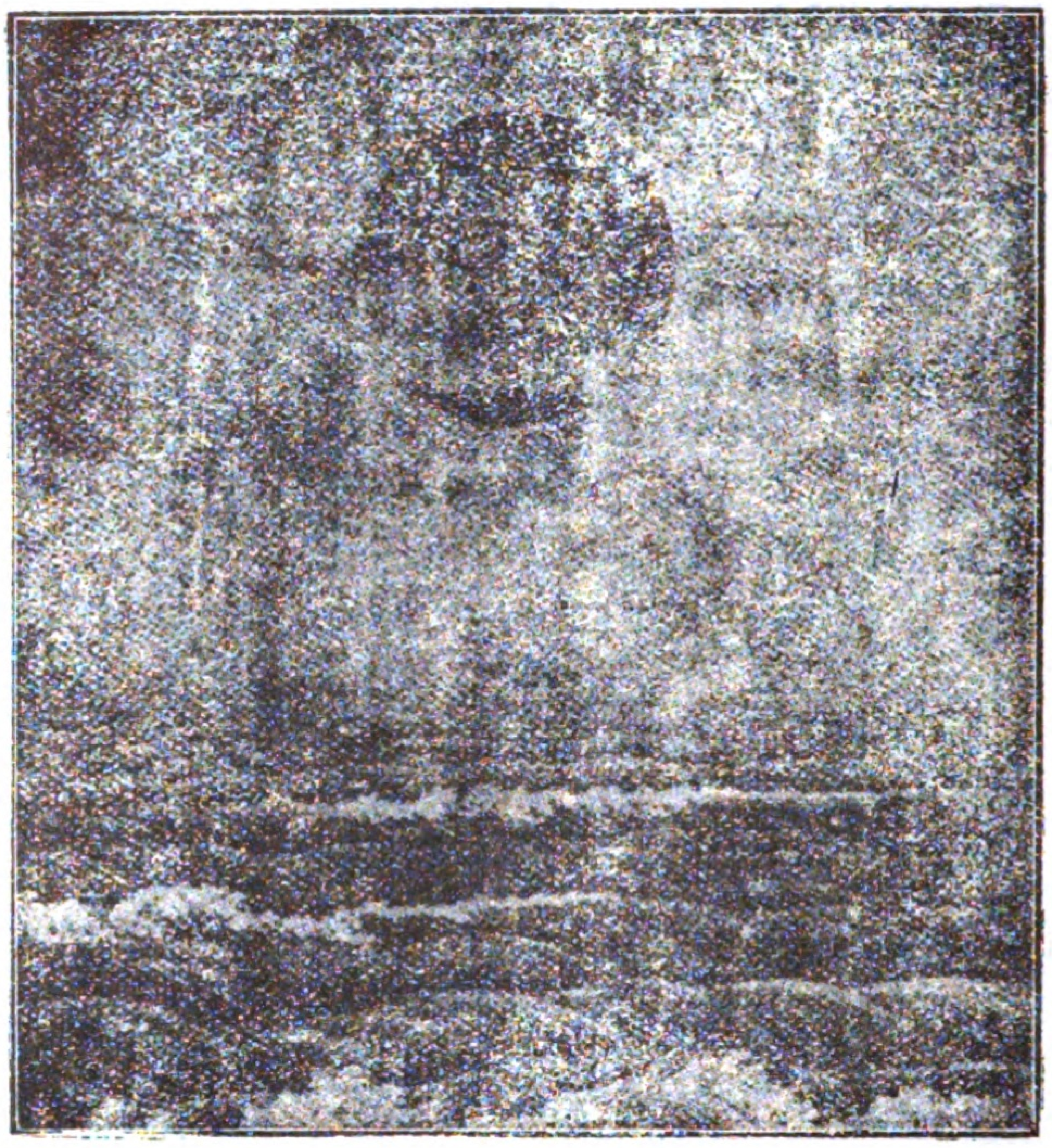
大正四年一月一日

東京市神田區柳原川岸廿二號地

ライオン齒磨本舖

支舖
大阪市東區博勞町二丁目
名古屋市傳馬町四丁目

廓清



第五年第壹號

年頭の覺悟

多事なりし大正三年を送りて、茲に希望多き大正四つの春を迎ふ。轉た感慨無き能はず。抑も舊年といひ、新年といふ。元是人爲の稱のみ。元日の天地は依然として大晦日の天地なり。之を冷靜に考ふれば殆んど無意義なるに似たり。然れども萬民皆此日を以て最も樂しき一日と祝し喜び、又人生の行旅を數ふるに一年一歳の稱を以てするの事實を觀來れば、元旦と人生と、離るべからざる深き意義なくんばあらず。過ぎし一年に於て吾人はそも何の爲すところありしぞ。茫々一年三百六十五日、只、夢の如く迎へ幻の如く送り、年暮なんとするの夕、顧みて轉た慚愧悔恨の情に堪へざるを覺ゆ。今や希望多き新年を迎ふるの時今年こそ最も意味ある一年を送るの準備を爲さしめよ。「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と、蓋し年頭の覺悟如何は將來の運命に關するところ大なり。輝々たる旭日大正四年の空に耀き初むる時、宜しく若水の清きに神心の穢を洗ひ潔め、先づ皇室の御繁榮と國運の隆昌とを祈り、又社會及家庭の幸福、さては己が前途の爲め上帝の祝福を求め、純潔なる精神と、確固たる道念を以て、本年に於ける首途の一歩を踏み出さしめよ。

嗟、新、新、新、歳新なり、人新ならざるべからず。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

會說

大正四年を迎へて

昨年に於ける政治界の回顧

廓清會々長　島田三郎

歳月の經過は奔馬の如く瞬時も止まらず、大正の御代は早くも四年となつた。天地間の萬象は進化の理法によつて少しも靜止せず、人の感覺の觸れざる處にも終始變化しつゝある特に三年より今年に至つては世界の大變化を受け、我帝國も非常の變化に出會つて、昨年三百六十餘日間を顧れば、其偉大なる變化は殆んど驚歎せざるを得ぬ。

世界は過去五十餘年、一部の方面を除いては風波起らず、世は太平を謳歌して來つたのであるが、其間に醞釀し醱酵したる特種の原因が爆發して千古未曾有の大戰亂となり、今は其進行の最中で、果して如何なる結果を齎す可きか、形勢は容易に人智の逆睹するを許さぬ。併し乍ら何れにしても國勢の變化と共に人類の生活、慣習、更に思想の上に一大變化を見るのは必然である。がこれは今後の結果に期待して暫く論評の外に置き、我國內部の變化を一言して、其の過渡の考へを略述して見やう。

■立憲政治の曙光漸く輝く

限りある紙面に各方面の觀察は言ひ盡し難いから今は政治上の變化だけを一言すれば、二十五年前に議會が開けて、政體に一變化を生じた。然るに之は政治上表面の變化で、思想は之と共に變化しなかつたから、過去の思想と新しき形式との間に矛盾があつて、憲法を運用するに藩閥の思想を以てし平等の政治を行ふに階級的思想を以てした。具體的に云へば封建時代の餘制もある、藩閥の餘制もある。而も之に對する人民の力は極めて幼稚であつたから、種々なる裏面の弊害が湧き出でざるを得なかつた。けれども進んで止まざるは社會の狀態であるから、いつ迄も此矛盾を社會は看過する事は出來ない、階級制度に對する平權の希望、封建の遺習に對する立憲の思想は發育し來り、過去の勢力は次第に衰へて、新に成長した勢力は期を見て爆發せねば止まざる勢を現じたのであつた。

昨年に起れる幾回の政變は此現象に外ならぬ。一二回の政變によつて藩閥の力は地を拂つて殆んど盡きんとしてゐる。藩閥の補助力となつて不自然に成長した政黨の力は、內部は

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

腐敗して僅に外形が存立してゐる。而して此不自然の殘骸を存立せしむる爲めには種々の努力があツたが、最早其の精髓は枯れて居るから眞の空氣の中には成長の力がなく、存立の基礎も將に消えんとしてゐるのであつて、其の最終の努力があらはれて先日の衝突となつた。具體的に云へば現政府は議會に少數を有して、多數の反對を受けたが、國民は此の中間にある議會の大數と、藩閥との野合によつて膨脹した政黨の存立を否認せんとしてゐる。解散なるものは國民の判斷に問はんとするものであつて、三月廿五日は總選擧によつて此判斷を與へる期日である。國民は既に政黨の弊害に飽き眼を開かんとしてゐるのであるが、過去の努力は容易に沒す可からざるものがあるから、よろしく其眞相を示して國民が判斷を過たぬやうにしなければならぬ。

■政治と風俗との關係

政治は一大中樞機關である。此機關が腐敗すれば、其腐敗はそれ自體の腐敗のみに止まらず、風俗に惡影響を與へ、社會全般が腐蝕する事になるのであるから、風俗を清めて政治を改むるか、政治を清めて風俗を改むるか、二者は引離す可からざる關係を有してゐる。然るに今日迄は待合の集會に政界の問題を決し、金錢の遣り取りに選擧の勝敗を定め、之が爲めに政治を汚し風俗を破つて滔々として天下の良心を痲痺せしめた。而して其禍は正業を迂遠なりとし、賄賂を立身の方法と心得る迄に墮落し果てたのである。其の滲毒の激甚なる戰慄に値するのであるが、政黨の暴横の爲めに土木費を高め、森林を切り荒し、反對者を苦しめる爲めに治水費を減じて、洪水を招き、特種銀行は政黨の擴張機關となり、東京の實例に據れば瓦斯問題と云ひ電燈問題と云ひ孰れも市内の實業家が、政權を掌握せるものと結托して奇利を博せんとしたるものに屬し、市會の實權を握れる常盤會の勢力一度失墜するや、瓦斯株電燈株を握れる實業家は株の暴落に重ぬるに暴落を以てするに恐慌し、今や處分せんとして處分する能はざる狀態にある等、事實を數へ來れば枚擧に遑がない。茲に於て正しき思想を懷いて勇氣なきものが政界より退却して自分一個の安全を圖り、潔癖の者は山林に遁れて足を清泉に洗ふの擧に出で、薄弱の者は正路を踏んで苦しまんよりは寧ろ濁流に游泳して利福に就くを良計とする程の墮落を來した。然れども物窮まれば通ずとの理によつて其反動が生じ昨年に於て大爆發を來したといふ事は、之れ實に天が未だ我國民を棄てざる賜物と感謝の至りに堪へぬのである。

此の風俗の矯正、政界の廓清、皆根本は人心の正を好み不正を憎むことの大本に歸せねばならぬ。廓清會は社會の風俗を基本として立ち、直接政治に觸れぬ社會的團體であるが、併しながら、要するに人心の根本から觀察すればやはり政治と全く絕緣した活動であるといふ事は出來ない、故に今は昨年の回顧談として、政治の方面から一言を述ぶる事とした次第である。終りに臨んで會員諸君の健康を祝し、昨年度に於ける御同情を感謝し、本年度に於ける御盡瘁を祈る。

御卽位式と精神的記念

成女高等女學校長
廓清會理事　宮田修

如何にして宏大無限の御聖德を表頌すべきか

歐洲の戰亂は中々片づくまいから、世界の平和とは云へないが、先づ目下の處では少くとも我東洋だけは傷ましい兵火を見ないでも濟む年らしく思はれる。勿論總選擧が行はれて多少政治界には暗鬪や反感や選擧違反や拘禁處分のやうな、厭ふべき社會的罪惡の幾分は見なければならぬかも知れないが、とにかく今年は我が主上天皇陛下の御卽位式を行はせられる最も目出度い年である。不幸にして昨年の政界は擧國一致の步調を亂したが、此大典を壽く點に於ては、如何なる國民も嚴肅な意味を以て擧つて欣賀することゝ信ずる。

既に斯う云ふ稀な大典、恭賀すべき御儀式の行はるゝ年であるとすれば、大典其ものゝみを恭慶するのみでなく、一年を通じて有意義のものにしたいと思ふ。古今内外の歷史によると、大典を記念すべき事業や設備は中々少くない。國立美術館の出來ることもある。大觀兵式の行はるゝこともある博覽會共進會の開催さるゝこともある。而して是等は何れも惡いことでない。然し私の考は是等物質的の記念以外に別に現在から未來に通じて國民の腦裡に深い印象を與へる精神的の紀念を殘したいと思ふ。由來陛下の御卽位と云ふ大事件は、單に一時を飾るお祭り騷ぎや限りある物質的記念事業でお祝ひの出來るそんな生やさしいものではなく、宏大にして無限な御聖德を表頌するには、之に準じて永遠に深大に遺るべき精神的の好記念を以てしなければならぬと思ふ。

公娼の廢止は最も可

私は斯う云ふ考から、少くとも今年を通じて消極的に積極的に日本の社會全體をして其個人的たると團體的たるを問はす、精神的向上の發現を見るに應しい年柄にして見たいと思ふのである。具體的に云ふと積極的には我が公娼廢止運動のやうな社會改良運動が、今年を以て最も効果ある成績を收めたとか、消極的に云へば從來頻々としてあつた殺人竊盜收賄等の警察事件が、今年に於て最も少かつたと云ふ年にしたいと思ふのである。換言すれば聊か漢學者の云ひ分のやうだが、大正四年と云ふ年は往昔の堯舜の御代と云ふやうな風で上下の情意が通じ合つて怨恨疑惑詐欺反感の如き厭ふべき民心はなく、強者は強くとも侵さず弱者は弱くとも怨まず、眞に明天子照臨の蹟を知るに足る世の中として送りたいと思ふ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

のである。

■協力一致の奮闘を要す

仍で此設計を實現しやうとするには、各方面の人々が各自の領分を廓清して一歩でも精神的に向上することを努めなければならぬが、就中我同志は既に多年盡して來た此事業のために一層協力一致して、一人でも多く醜業の經營者を反省改善させ、一人でも多く醜業の當事者を覺醒させ救濟し、一人でも多く世間反對論者の誤解を解き、やゝ極端な云ひ分だが出來ることなら本年の末には全く無用として本會を解散する位まで進むのでなくてはならぬ。

■總選擧と我等の代議士

終に臨むで一言すべきは、本年の總選擧に際して我々は常に廓清的精神の上に立ち、其國會に送るべき選良は十分に吟味を遂げて苟な選擧をしてはならぬことである。いくら演説が上手でも、金持ちでも、精神的向上の趣旨に反するやうな人間を選んではならぬことである。まして醜業の經營などをやつて居る連中は勿論、吾人の主張に耳を假さぬやうな連中は斷じて選出しないやうに努めたいものと思ふ。少くとも大正四年選出の代議士は、堂々たる紳士として認め得らるゝ者のみにしたい。

形式的生活より内容充實へ

廓清會評議員
文學士　三輪田元道

■『内縁の妻』の問題

昔のやうに『由らしむ可し、知らしむ可からず』といふ封建制度の時代には、形式を以て律するといふ事が必要かも知れぬ。併し乍ら人智が進んだ今日の世には形式よりは内容の充實といふ事に重きを置かなければならない。然るに日本の風俗習慣はたゞ形式のみであつて一向内容の充實といふものがない事を著しく感ずるのである。これ廓清を要する所以である。

具體的に例を擧げて以下少しく論じて見たいと思ふ。

我國には『内縁の妻』といふものがある。内縁の妻といふものは夫婦生活をして居つて戸籍吏の取扱を受けない婦人の謂ひである。日本の法律では結婚をしても戸籍吏に登録されない中は有効でない、此形式を通さねばほんとうの妻と認められず所謂『内縁の妻』といふものになるのである。然るに一方から云へば日本は禮儀の國で、婚禮をするにも親兄弟親戚一門寄り集り、三々九度の盃をする、此盃をしなくては親戚一

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

門は正式の結婚と見做さぬ。即ち是れが實際生活に照して神聖な結婚である。然るに法律は戸籍吏の取扱つた結婚であるならば三々九度もいらぬ、教會で式を擧ぐる事もいらぬ、野合でもいゝといふ事になる。そこで餘程面白い現象が表はれる、即ち戸籍吏の取扱を受けない間は如何なる儀式を行つても内縁の妻となる。而して其時期は短いものであつても二ケ月三ケ月、或は一ケ年二ケ年、遲い者で下等社會になると五年も八年も戸籍吏の手を經ないで放つちやらかしにしてゐる。さういふものが内縁の妻の意味で、幾何組國内に生活してゐるか分らぬ。而も此狀態が下等社會になると頗る多數である。ところが隣り近所では其生活を見て他人同志の同居とは見ない、實際上の夫婦としてゐるのである。それにも拘らず法律上からいふならば、他人同志一男一女が共同生活を營んでゐるといふにしか過ぎぬ。玆に至つて最早結婚なるものは神聖なものでなくなる。戸籍吏の手を經なければ無意味なものとなるといふのは一體どふいふ譯であるか。

私の考へでは『内縁の妻』といふものは、世界にない特種の風俗である。而も決して誇る可き風俗ではない、新聞などに表はれて來る悶着には屹度内縁の妻が出て來る。故に我々は第一内縁の妻といふ樣なものが、日本に一組も行はれぬ事を希望するのであるが、それには一男一女が苦樂を共にしてゐるならば夫婦として了はなければならぬ。若し之れに應じない者に對しては警察權を以て、風俗壞亂として直に共同生活の解散を命ずる。警察官は巡回して手續をしてゐない者には手續をさする。斯樣にやつて行つたならば始めて形式と内容と一致し、實生活と法律と一致し、國家の威信法の權威といふものが保たれるのである。之を等閑にするのは法律の權威を失墜せしむる所以であつて、法律は内容のない形式一邊のものと化して了ふ。事實上の夫婦であり乍ら法律上は他人であるから夫が戰死しても遺族としての慰藉を受ける事も出來ぬ。或は出征するからと云つて俄に何でもない人を妻の形式にして戸籍吏の登錄を經、出征者の家族乃至戰死者の遺族としての厚遇を受けやうといふ樣な者さへ現はれてゐるのが現狀である。して見ると我々の眞面目の重大なる結婚といふ事件は、形式一邊で法律上或は成立ち或は成立たない事となるのであつて、餘りに淺薄な國民の思想ではあるまいか我等の思想は法律も道德も形式一邊の申譯でなく内容に重きを置かなければならぬ。であるから我國の風俗を壞亂させる『内縁の妻』なるものは、公に認められてゐないに不拘、警察事故が起れば、此言葉を用ひなくては說明が出來ないやうな生活狀態を廓淸し、結婚を神聖なるものとする事に指導し或は制裁を加ふるかしなくてはならぬと思ふ。斯くして國民の品位が高まるのである、何やら譯の分らぬ樣な生活は、自然お互の人生を侮るに至る原因であると信ずる。

■隱居して嫁に行く珍現象

日本人が形式に重きを置く結果、隱居して嫁に行くといふ珍な現象もある。隱居と云へば誰しも六十七十の老媼を想像す

るであらう、此人が嫁に行くといふと氣狂じみた風俗を想像せぬ譯には行かぬ。之も形式に囚はれた法律の適用法として止むを得ず隨所に行はれてゐる事なのである。それは日本は家族制度の國であるから家名を重んじ、廢家といふ事が容易に出來ない。今一人の娘があつて父母が死んだとする、一人ぼつちとなつて養子を貰ふには財産がなくて來人がない、嫁に行くには廢家せねばならぬ。斯ういふ場合に臨んだらどうしたらよいか、日本の民法は男なら六十歳以上でなければ隱居といふ事は出來ないが、女は何等の制限がない、即ち何時でも隱居が出來る、そこで子供か何かを形式的に養子にし家督相續者を立て、自分は隱居といふ屆をして、それからお嫁に行くといふ這麼煩瑣なお嫁さんが出來上るのである。

法律は其國民生活を基礎としてゐなくてはならぬ。家を重んずると云つても、今日に於ては何の意味もない事である、昔は家を相續すると徴兵を逦れるとか、村內で相當の待遇を受けるとか、家祿とか色々特典があつて、或は財産がなくとも家名が重んぜられたのであるが、今日は家名などゝいふ事は無意味であつて粉糠三合持つて居れば財産のない處になど全く養子に行く者はない。だから女が一人ボッチになつたら一生獨身で暮すか、然らざれば隱居するより外はないといふ樣な法律は實に愚劣なものと云はなければならぬ。これなども形式に囚はれた惡しき風俗の一例であると思ふ。

所得税の高率と兒童の通學

家族內に一定の所得税を拂ふものが二人以上ある時は其税率が高くなる、これなども國民を驅つて內容を去つて形式に就かしめる所以のものである。

一家族內に親と子（或は兄弟）と各五六百圓づゝの收入があるとすれば、同額の所得ある各一人づゝの二家族よりも税率が高くなつてゐる。そこで同じ家に事實は住んでゐ乍ら別居の形式を取る者を生ずる事になる。別居だといふ紙一枚の屆出でによつて一緒に居るよりは安くなるといふのは、實に變なものではあるまいか。日本の道德からいふならば、同じ家に住む事はよい事であり、家族の發達として喜ぶ可き事であるが、所得税の方から云へば別居を利益なりとするのである。一方に於ては家族制度を唱へ乍ら、一方に於ては家族に壓迫を加へるが如き矛盾を玆に發見するのみならず、一枚の紙が同居でないと云へば所得税の税率が低くなるといふのは、國民に虛僞を敎へるものとして責めなければならぬ。

も一つ違つた例で云へば、東京市では小學校はすべて市立としてある。然るに事實は區立で、經費は區が持ち獨立の施設をしてゐて、全く市立ではない。若し之を文字通りに市立として解釋すれば、東京市民は何處の小學校へでも自由に通學が出來る筈であるのに、實はやはり自分の居住區でなくてはならぬ。橋一つ向ふに立派な小學校があつても行く事が出來ないのである。そこで又玆に面白い關係が出來る、それは寄留さへするならば何處へでも行かれるといふ事である。麴町の人が京橋の學校へ通はせたいと思へば、京橋區へ寄留の紙一枚出しさへすればよい、牛込から神田へ通はせやうと思へば神田に寄留の屆書をすればよいといふ事になつてゐる。一片の紙を出しさへすれば事實は何處へ住んでゐやうとも、未丁年の學齡兒童が單獨で他の區へ寄留して勝手な處に通へるのである。さればこそ區役所の帳簿は愈々複雜になる、區

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

吏員の手數がかゝる、人口調査が精密に出來なくなる。

遊廓問題も亦然り

然らばどうして斯樣な事になつて居るかといふと、封建時代の遺習で、昔から太平になると繁文縟禮に流れ、儀式を重んずる樣になる、而して其中心はといふと宗敎で、宗敎が儀式を重んずる樣になると世道人心は頽廢する、宗敎の生命は枯渇する、ルーテルの宗敎改革の如きも亦左樣で、之を打破する爲のプロテスタントであつたのである。人間の生活も人前ばかりいふやうになれば、僞善といふよりも虛僞である。

翻つて遊廓問題の如きも然りで、貸座敷といふものは形式に囚はれた虛僞である、我々は自由の民である、明治の初年から人權を重んじ人身の自由といふものが國家の力で認められたのであるから、人身の賣買、貞操の賣買、さういふ公娼制度なるものは新しい思想と兩立し、調和して行く事が出來ぬ。そこで貸座敷といふ形式をとつた。實際は依然たる人身賣買でありながら、座敷丈けを貸し、自由契約の下に賣淫が行はれるかの如き形式を取つて、國家は之を許してゐるのである。これなどは內容を離れて形式を重んずる最も著しい例であらう。

選擧法の完備は何の爲めか

最後に今一つの例は、日本の選擧法位綿密なものは文明國にない。日本の選擧法をあの儘解釋したら日本は非常に嚴密な法律をよく守る國のやうである。が他の一面より云へば、斯樣なものを作らねばならぬ程日本國民は厄介な民であるといふ事になるのである。卽ち表面の秩序の整然たるは內容の腐敗を語るものたるに外ならぬ。それでゐて又奇怪なる事は何人も代議士になるには運動費が約一萬圓かゝるといふ事になつてゐる。して見ると可なり多數で當選するとしても五千票であるから、一票の投票を得るに二圓を費した勘定である或地方の如きは二千票あれば澤山であるから、此處では運動費が一票五圓かゝつてゐる譯合である。

然るに選擧法の表面から見たら一文もかゝらぬ筈になつてゐる。車馬賃も、辨當も、饗應も出來ない、だから選擧事務所に行つて見ると辨當は自辨たる事と書いてある、が其實手辨當でやつてゐる者は一人だつてある筈はない、もう既にそんな事を書くのがをかしいのである而も帳簿だけはいゝやうに出來上て居る、車も勝手に乘り廻つてゐるが、誰が自辨で乘らう、皆候補者の衣囊から出るのは勿論の話である。運動費をかけたら罪惡といふ事になつて居つて、其實一萬圓かゝる事は大臣になつてゐる者を始め、皆知つても居り經驗もして來てゐるのである。其間に如何なる不正が行はれて居るか、明々白々ではないか。而も形式を重んずる習慣があるからさういふ形式上さへ收賄や買收の迹がなければよい、上品にさへやればよいのである。

議會の解散せられてゐる今日、國民は大に選擧界の廓淸を圖る絕好の機會として起たなければならぬ。一萬圓以上もいるといふ樣な有樣では、到底眞の憂國の士は出られない。之を要するに選擧法の完備は犯罪の充てる證據で、國民の幼稚なる道德を表明したものである。大正の時代は廓淸の時代である。大正四年を迎へて私は特に形式を去つて內容の充實といふ事を考へ、且つ諸君と共に努力したいと思ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

論議

風俗問題と前後の顛倒

教育調査會長 廓清會評議員 文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之

○悲しむべき風紀の廢頽

婦人の方の風俗が近頃大變惡くなつて、社會の爲め誠に困つた事である。殊に新しき婦人と稱するハイカラな先生達は自ら惡い事としてやつてゐるでなく、今日は昔の世の中と全く違つて、婦人も昔のやうではならぬといふ主張の下に、一の自負心、誇りを有つて社會道德と相容れない事をやつてゐるから誠に厄介である。歐羅巴に於ては無論變つた女もあり變つた運動も色々あるが、歐羅巴のは歷史的に發達して來てゐるのであるから、日本のそれとは餘程趣を異にしてゐる。參政權運動の如きも歷史を背景として次第に發育し來つたものであるから無理が少いが、日本の新しい女の行き方は如何にも突飛で、藪から棒で、連絡もなく、統一もなく組織もない、社會と適應しない、破壞的頹廢的色彩のものである。

嘗て日本に女優養成の問題が起り而も立派な名ある人達が之を助けて愈〻やらうといふ時に、自分はこれに對する意見を公表して置いた、『惡い事が始まつた、必ず結果が風敎上よくない事になる』と、考へもし、言ひもしたのであつたが、果せる哉爲に女の風俗は漸々惡くなつた。近來はこれが流行の魁となり、上流のお嬢さん迄が女優の姿體を眞似、或は藝妓の粉裝を學ばんとするに至つた。斯くして婦人界の風俗は益〻頽廢し來つたのである。

乍併女子の風俗の頽廢は、決して罪を女子自身にのみ歸して了ふ可きものではない、少しく眼を開いて見たならば罪は寧ろ根本に於て男子にある事を發見するであらう。私は女子の風俗を改めやうとすれば第一に男子の風俗を改めなければならぬと主張する者である。不良少年の問題の如きも亦然りで、『どうも子供が惡くなつた、何とかしなくてはならぬ』といふ、と如何にも親爺はよい樣に聞えるが、實は其親なるものが家庭に於て腐敗の種子を蒔いてゐるのである。斯うした親を持つてゐて子供ばかりよくなりやうはないではないか、學校でいくら善い敎を受けても家に歸れば實物敎育で惡い事を覩せられる、次第々々に家庭の惡風に染んで來るといふのは當然の事である。子供を善くしやうといふならば、先づ家庭を廓淸しなければならぬ。家庭が濁つて少年少女の淸からん事を欲するは百年河淸を待つよりも迂である。

○藝妓中毒病

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

殊に近來風俗を最も頹敗せしむるは藝妓の跋扈である、併しこれとて藝妓自體を憎むよりは之れを要求する社會を憎むべきは勿論である。立派な人達が此醜業婦に戯むれ、これと友達になつてゐるのを一種の名譽のやうに心得てゐる。而も此事實を極めて平氣に、何等の疑念も挿まず、宴席に侍せしめて必要缺ぐ可からざるものとしてゐるといふのは、何たるふしだらな社會であらうか。私は平素藝妓無用論を唱へてゐる者であつて、藝妓がなくては宴會が出來ない、交際が出來ないとするのは今の日本の惡習慣に囚はれてゐる藝妓中毒者であり、事實は決して左樣な筈のものでないとするものである。論よりも證據西洋料理を見るがよい、五十人百人のお客をするにも藝妓なしにボーイで事は足るではないか、日本に於ても現に以前は男子が袴穿きで給仕をして些の不都合を感じなかつたではないか。本論に就ては『宴會改良論』の題下に藝妓排斥論を本誌昨年一月號に掲げて置いたから詳細は就て御覽を乞ふとして、私は不良少年が出たり、一般婦人の行狀が惡くなつたり、藝妓輩が跋扈するといふけれども、皆前後を顚倒して考へなければならぬものだとするのである。不良少年の問題は、心配する其の大人自身、殊に父たるものが少年少女の爲に生ける善良なる模範とならなければならぬ。同じ理由で今日の婦人の風俗を矯めんとするには男子が先づ高尙な人格を養はなければならぬ。男子が藝妓買をしたり、本妻と共に妾をおいたり、外妾を蓄へたり、或は妾でなくとも正妻以外の女を弄んで平然たるばかりか、それ等を以て男子の働き、男の腕などゝ考へられて居る世の中に、婦人の風俗ばかりどうしてよくなし得やう道理があらう。要するに今の人々の心配する事が皆前後顚倒してゐる。源を清めずして流れの清からん事を望んでゐる。甚しきに至つては己れ自ら流れを攪拌して濁水を擧げて置き乍ら、汚い水だなどゝ嘯いてゐるのである。

敎育家新聞雜誌の奮起を望む

而も玆に最も私が遺憾に思ふのは、藝娼妓の問題、云ひ換へれば風敎問題に對して、最も密接重大なる關係を有する敎育家が對岸の火災視してゐる事である。新聞も雜誌も等しく沈默してゐる。吉原が燒けた時の如きは世界中の新聞に傳はつて、義捐金や見舞狀すら海外から來たのであるが、凡そ外聞が惡いと云つて此れ位國民としての恥辱はないのに、平素社會問題を論議し、婦人問題を研究し、或は直接敎育の任にあるものが更に動かないといふのは何たる事であるか。某新聞の婦人欄の如きも自分は最も囑望して注意を怠らないのであるが、やはり感服する事もあるけれども其然らざる場合が又甚だ多い。それは元來新聞なるものは或程度迄世間に媚びなくてはならぬ物であるから、誠に餘儀ない事であらうが常に堂々侃諤の論を見る某新聞に、九星の如き迷信を掲げて俗に阿つてゐるが如きは、最もよく此間の消息を語つてゐるものであると思ふ。其點に於て『廓淸』の如き雜誌が端正峻嚴に社會を批判し指導して行く事は、最も喜ばしい事で、其健實なる發展を風敎の爲めに祈つて止まぬ次第である。

精神の活用を廣くせよ

番町教會牧師
廓清會評議員　綱島佳吉

○眼を大局に注げ

公娼廢止、風紀廓清と云ふ事はまことに結構な事である。自分も滿腔の同情を以て之に贊成する。けれども人は動もすれば熱心の餘りが、その局部ばかりを見て全般を見る事を忘れる事がある。

云ふまでもなく人には種々の慾望があつて、成程或場合に於ては之れを抑制しなくてはならぬが、只惡るい〳〵とばかりに之を抑へつく可きものではない。伸んとするものは上から壓へつけると却つて其ため惡るい結果を生ずる事がある。例へば竹の如き、上へ〳〵と伸びやうとしてるものを、無理に壓へつけると、横の方にまがり乍ら頭をあげやうとする。どうしもて伸ぶべきものは、どこにか伸びなくては居ない。だから性慾の如きも圓滿に發達せしめて、如何したなら人間全體を大きく〳〵する事が出來るか、どうしたら社會の進歩を期するかと云ふ事を考へねばならぬ。社會が發達進歩する間には隨分困難もあり危險もあり或は弊害も出來てくるだらうがその困難や弊害ばかりに目をつけて、一般を見ないと云ふのはよろしくあるまいと思ふ。

○全身を健康にせよ

又日本人は寒いと云つては直に着物を着、暑いと云つては直に之を脱ぐ。これは家屋の構造などの關係もあらうが、こんな事にコセ〳〵せずとも暑ければモット風の通るやうにし寒むければ其室全體を暖にするやうにした方がいゝのである。

又手甲に一寸墨でもついたとして考へて、其部分ばかりを洗ふより、手全體を洗つた方がいゝのを更に身體に就て考へて見、其一部分が病氣にかゝつたとする、其場合多くの人は其局部だけに目をつけて一生懸命になつて居るが、無論局部の手當ては必要である、けれどもそれと同時に體全體を健康にすると云ふ事の必要な事を忘れてはならない。

○角をためて牛を殺す

今日の日本の政治家は、右から左へと起つて來る問題を解決して行きさへすれば可いかのやうに思つて、また然なしてるのである。成程政治家は差當り、起つて來る實際の問題を解決しさへすればいゝやうなものであるが、實を云ふと政治

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

と云ふものは種々の方面に關係を有して居る。殖産興業、敎育、道德若しくは宗敎などに密接の關係があると云ふべきで卽ち政治家たる者は此國家社會の一般に目を注がねばならぬ實業家にしても亦、吾々は金儲けをして一國の富を增しさへすればいゝのであるとすまして居るが、それはそれに相違ない、けれどもまた其他の方面にも目をくばらなければならぬ事がある。自分には實業以外に何物をも顧る必要がないと思ふのは間違つて居る。

敎育家と云ひ、社會改良家と云はるゝ人々の中にも、狹い自己の周圍、只其當面の問題にばかり熱中して社會一般若しくは人類全體の發達と云ふ事に意を用ゐないところから往々にして角をためて牛を殺すやうな事がありはせぬかと思ふ。

牧師などの中にも自分は只人の魂を救ひさへすればいゝと考へて居る人も大分あるが、人間には靈と肉との二つがある。この二つがあると云ふ事は常に吾々の忘れてならぬ事で、從つて靈だけを救つたばかりでは完全だと云ふ事は出來ない。

廢娼問題の如きも、人道上風敎上實に結構な事であるがこれを主唱するものが、只其事ばかりを見て居るやうでは全般に渡る社會の改良に手落がないとも限らぬ。彼等の魂を救ふのみならず、其肉體を救ふの策を講せなければならぬ。

病の局部を癒さん事にのみ熱中して、全體の健康と云ふ事に意を用ゐる事を怠つたなら、眞の改良は出來ないのである。で常に廣く目をくばり、また精神の活用を廣くする事に心掛けねばなるまいと思ふ。

◉長野縣中野警察の暴戾

正會員　立石芳松

記者曰く左は立石氏より同君の牧せらるゝ敎會へ投じ來れる一娼妓を救はんとして奇怪にも警察の妨害に遭ひ、再び娼妓は地獄に拉し去られたる事件に就ての同君よりの來信である。先づ吾人は其顚末を公にして敢て狂暴なる當局の反省を促す。

尙本會發行所在地川崎町に於ても極めて奇怪なる取扱ありたるも、餘白なきを以て次號に筆誅を加ふ事としたり。

■拜啓昨日申上候娼妓より、只今傳言有之其言處に依れば、當日は樓主側より數名參り巡査及び部長署長かはるがはる午前九時より午後四時に至る迄、だましすかし、終に至りては借金が增すから自由廢業致すなどの薄弱なる申立は、規定上自由廢業は出來不申との由で樓主に引渡され、目下はいや〳〵ながら、不止得娼妓に從事致居り候へ共、足袋はよごれても樓主は足袋も貸し與へず、寒國の信州に在りて足袋もはかず追ひ使はれ、實に地獄の困難は此事かと思ふ位に候間、今一度廓淸會に賴み何とか致度との儀に候、若し何の致方なくば自殺致すとの事に有之候間何卒御援助被下度、當樓主は抱妓に向ひ當樓に於ては警察署と內約致しある故、何人が援助するも直に樓主を呼出し引渡す可きに付、自由廢業は當廓に於ては、不可能なりと申居候由に御座候、何分當地に於ては初めの事にて自後に大なる關係有之候事故何分の御援助被下度賴上候、因に本人の借金は一ケ年半働き百數拾圓增して居るとの事に候。（十二月廿七日）

■御返事頂戴仕り難有候、當警察署の非理非道は甚だ敷者に御座候、第五條第六條のみならず第十二條も無視し、本人は犯罪者の如き取扱をなし、小弟に對面なさへさへざり、小弟方より持參致せし晝飯の如きも巡査が檢めたる上食はしめ候との義に、小弟は警察內にも一警監ミッションの助を致し傳道致居候故、知合の間がらに候へ共、餘りの不都合に少々議論も致し候へど、第五條及び第十一條は驚く可き曲解を致居候故、他府縣の例も申候へ共本縣は他府縣の例に習ふの必要なしとの事故、法律を解するに縣に依て相違有る筈はなしと申候へどそれなれば君等の方で如何樣ともなす可しと、實に子供の喧嘩の樣な事を申し驚き入候、當縣にても自由廢業致せし者も有之候へ共、當警察の如き取扱は未だ見聞致せし事無之候、而し此儘泣れ入に致す間敷と存じ候間時日を見て何かの方法も致す可く候に付、其節は萬事御世話被下度先は御返事迄（十二月卅一日）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

研究

醫學上より觀たる絶娼論

文學博士 ドクトル 富士川游

□日本に於ける娼妓の歴史

日本に於ける賣笑婦の起原は何時であるか分らないが、奈良朝時代には已に存在して居たのである。有名な日本最古の歌集『萬葉集』は勅撰の和歌集であるが、其第八卷に遊行女婦と云ふ者の歌が載つて居る。萬葉集は本統の勅撰ではないと云ふ議論もあるが、古今和歌集、又は他の二十一代集などの眞正の勅撰集にも之に類する者の和歌が載つて居る。此の遊行女婦は即ち當時の娼妓であつた。斯く天皇の勅命を以て撰集せしめた歌集に娼妓の歌を麗々と載せて置くと云ふ樣な國は世界中には餘りないと思ふ。

彼の有名な「源氏物語」や其他の著書にも娼妓の事が公然書いてある。又帝室の貴重なる官制とも云ふべき「公卿補任」と云ふ書物の中にも、母は某の遊女なりなど、憚らずに書てある。大江匡房の著はせる「本朝文粹」にも遊女の作が載つて居る。帝王も關白も其遊女の許に往來せられたる事が立派に書いてある。のみならず其頃の宿々には淫賣婦即ち娼妓があつて、其に高貴の人々が通つて、之を妻にせんとしても、まさか其儘ではうまくないので、何時の間にか其遊女が某長者の娘分となつて、身分の賤しからぬ人が公然之を弄ぶといふ風になつて居る。彼の池田の「熊野」だの、大磯の「虎」など云ふ者は其例である。源義經の「靜」、後鳥羽院の「龜菊」なども其である。斯く雲上までも遊女が跋扈する樣になつたから從つて弊害も多くなつたので、後には之を取締る事になつた。賴朝の時には清水の冠者と云ふを其別當に充てたのである。鎌倉から足利時代になつて世は戰國となつて頗る忙がしい時でも、遊女は矢張其間に横行して居た。そして武人が軍陣の間に之を弄んだのは、「虎」が賴朝の富士の卷狩の時工藤祐經の陣中に呼ばれて居た事實でも分る。然るに慶長十七年豐臣氏が京都に遊廓を造つて玆に遊女を置き、里見某を其別當に充てゝ取締らせ德川氏の時に元和年中、遊女をば傾城町より外に出すことを禁ずる法律を作つた。若之を破つて、廓外に出す時は其者の家屋を沒收すると云ふ頗る嚴重な規則であつた。然し是は單に遊女即ち娼妓を監視するので、今日の如くに衞生的の組織とは少しく違つて居たのである。

西洋にも娼妓はある。大層立派な衣服を纏ひ、公然と淫を鬻いだ者である。之を德川氏の時の樣に一定の場所に置いて身體の檢査をなし、居住の制限を定めたと云ふ事は千六百八十七年の終り頃から、千七百九十八年まで、佛蘭西で行はれた。斯く身體と居住とに制限を加へて娼妓を取締ると云ふ事は二百年前に佛蘭西に始まり、後獨逸にも露西亞、墺洪國などにも行はれ、遂に世界に擴がつた者である。

□娼妓は社會に必要なりや

∴斯くの如き賣笑婦、遊女、又は娼妓は果して社會に必要なる者であらうか、或は不必要であらうか。又之を勦絕する事

が出來ようか、或は出來ないかを考へて見るに、私は勿論不必要な者で、是を絶滅せしむる事は必ず出來ると云ふのである。廓清會の主張は先第一に娼妓を國家監視の下に一の營業として取扱ふ制度を廢止しようと云ふのであるが、私は何一歩進んで單に制度のみならず、賣笑婦なる者を根底より絶滅せねばならぬと思ふのである。其には第一道徳上から之を考察し娼妓が果して有益な者であらうか否かを研究し、第二に法律上から果して之を廢するのが正當であらうか否かを考へ、第三には醫學上から今日の制度が無害有効であらうか否かを察し、其結果到底之が存在を許すべきものでないと云ふ事に歸著し、今や已に萬國同盟まで出來て居るのである。そして單に制度を廢しようと云ふのではなく、絶對に賣笑婦其物を根絶しようと云ふ議論になつたのである。即ちマイエルは法律上から國家監視の下にある賣笑婦を攻撃して居る。又他の學者は醫學上から國家監視の下にある娼妓は有害無益であるから之を廢止すべき者であると論じて居る者もあり、道徳上から之を論じて、斷じて許すべき者に非ずと斷定した人もある。然し其には又反對の意見があつて、法律上からも、道徳上からも宜しくないが、娼妓なる者は社會に無くてはならぬ者とすれば、已むを得ず之が取締りを嚴重にして、其が爲に蒙る病毒傳播は防ぐより外はないから、國家が之を監視するのは必要であるとして居る。是が今日國家が公娼制度を設くる最大理由で、露國のパルモンスキーなどの説が是である。即ち道徳上法律上から論ずれば元より惡いには違ひないが、之を保存して置くのは衛生上已むを得ない事であるとするのである、が此種の議論に對して吾人の考は簡單である。即ち娼妓を公許して置けば、花柳病撲滅の問題の解決さるゝ時代が來るであらうか否やの問題に歸着するとするのである。

□娼妓監視の方法

先娼妓監視の方法を見るに列國區々であるが、之を大別すれば五通りになる。其第一の方法は一定の家があつて其内の主人に娼妓は抱へられて賣淫を營ませられて居る法。之はボルデルシステムと云ふ。第二は一定の家はあるが、主人に抱へられて居るのではなく、自分の意志で自由に營業をして居る。之をローテルシステムと云ふ。第三は自分の家に住んで居ても、主人に抱へられて居るものも、抱へられないでも、一定の廓内より出てはならぬとして、其内に閉ぢ籠められ、政府の監視を受けて居るもの。ブレーメン、ハンブルヒなどが此法を用ひて居る。第四は娼妓は何處に住んでも構はぬ。唯一定の市街には決して入つてはならぬと云ふ制度を立てゝ居るもの、獨逸の伯林などが其である。何々の町には娼妓は出てはならぬ、其外の市街には居てもよいとするので、日本なら銀座通りにばかりは出てはならぬと云ふ樣に定めて居るのである。第五は絶對に不可ないとする者、米國紐育、市俄古などが其である。そして監視の方法も大抵警察が監視する樣になつて居て、花柳病の治療も行政的に受けさせて居るのである。斯く警察が監視し、或は丁抹、紐育などの樣に

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

絶對に禁止しても果して花柳病が蔓延しないか否か。是は重大な問題である。如何となれば今より廿五年程前に痳病の黴菌を發見した獨逸のブレスラウの大學の梅毒專門の博士イッセル氏はブレスラウの市で、娼妓の黴毒を檢査した時に痳病を發見したのであるが、此人の說に據ると、檢査に由つて痳病患者なりや否やを明かに斷定するには顯微鏡の檢査をなしても、大概九十プロセントまでの病人を見逃すと云つて居る然るに今日の檢黴は極めて簡單である。是は事情已むを得ぬ事であるが、顯微鏡の檢査をなしても尚百人中九十人は之を見逃す樣になると云ふに、顯微鏡を用ひざる極めて簡單なる檢黴法では殆んど絕對に花柳病患者を見出す事が出來ぬであらう。故に今日の黴毒の學問を專門となして居る人は、今の檢黴は有害有益であると斷定するのである。そして伯林大學のブラシコー又は佛蘭西のピアオなども之を贊成して居る君斯坦丁斯堡のジエーリンと云ふ人は極めて多數の材料で研究した人であるが、此人も檢黴は廢めた方がよいと云つて居る。獨逸伯林大學の花柳病專門の學者ブロッホと云ふ人は性慾一般に就いて研究した人で、千九百年に『英國の賣笑婦』と云ふ書を著した。其中に醫者が唱へて居る國家監視法を贊成した說があつた。然るに千九百八年に本人が書いた書物の中には、國家監視法は甚だ宜しくないと考へ、遂に絕娼論となつて、明かに前說の誤りを說いて全然反對の結論をなして居る。ブロッホは十年間研究を積んだ結果、賣笑婦は人間に避く可からざる者であると思つて居たが、之は間違つて居る。全く絕滅すべき者である』と明言して居る。私も此說には同感である。醫學の大家で花柳病の大家ブラシコーにしろ皆絕娼論者である。伊太利のロンブゾーなぞは『賣笑婦は先天的犯罪者であるから、之を國家で監視するのが必要である』と云つて居る。

□統計はあてにならぬ

果して衞生的の監視が有害で無益であるかと云ふに、全くそうであると云はねばならぬ。統計表によつて監視制度を廢めた爲に花柳病が增したか、又は減つたかを斷定するとは甚だ危險である。例へば或國に於て賣淫婦の監視を廢めた所があると假定する。そして其後壯丁なぞの花柳病患者を統計に取り、其簡單なる數によつて其効力を云々するとは全く危險である。如何となれば此の花柳病の蔓延は單に賣笑婦一人の爲ではない他に之が原因をなす者は澤山あるから、是に由つて其有効無効を斷定せられない。我國の群馬縣などが其である。假へ群馬の樣に公娼を廢しても、壯丁の花柳病患者は却つて增すこともあり、又少くなることもある。丁抹で娼妓の監視を廢めて了つたのは千九百六年であつた。所が其後黴毒患者は多くなつた。そこで之は何に原因するであらうかを虛心平氣で調べて見たら、全く他に原因があつたとの事であつた。又千八百八十八年にクリスチャナで娼妓の檢黴を廢めた所が、黴毒患者は非常に減少した。是は婦人の黴毒患者が自分から醫師にかゝつて之を治療したからである。英國

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

でも檢黴を廢したので千九百四年には黴毒患者は一萬人中百八人に減つた其外クリスチヤナなどの例を見ても黴毒患者は檢黴を廢した爲めに明かに減る。然し是は何か他に原因があるかも知れぬから、單に統計表のみを見ては何れとも斷定は出來ぬ。

□檢黴の無効有害

私は檢黴なる者は何の利益もないと云ひたい。醫學に關係のない人は迂遠であると云ふかも知れぬが、實に檢黴は害があつて益がないのである。其一つの理由は此迄の日本の調べによりと、檢査せる娼妓の內三人目には必ず一人は痳病患者がある。然るに千八百八十九年には伯林の同患者は二百人中一人の割合になつて居る。是は獨逸では我國よりも衛生思想が進んで居るが爲に、娼妓は自衛上病を發見して之を治療するからである。然るにライプチツヒでは千九百二年の統計に據ると娼妓の花柳病患者は百人中に四人の割合であるが、學生の方を調べて見るに百人中二十五人の花柳病患者があるから、本家本元の娼妓の中に百人中四人のみであるとは實に疑はしい事で、全く娼妓の檢査の信ずるに足らざる事を證明して居る。伯林で登錄されたる娼妓の數は三千七百人あるから、之を檢査するに八人の醫師が三時間に完了すると云ふ事である。そうすると醫者一人で一人の娼妓を檢査するのが四分間である。獨逸伯林の檢黴は立派に出來て居るとは云はれても僅かに四分間に一人の患者を檢査して其で病患者を發見する事は無理である。百人中九十人までは患者を見逃すと云ふのは尤もな事である。伯林では娼妓に注意書が渡つて居て、病毒を受けぬ樣に豫防法を書いてあつて自分から病に罹らぬ樣に注意をして居る。他の國に比すれば自衛は確に進んで居るには違ひないが、二百人中一人と云ふ樣に格外に患者の少ないのは檢査の手落ちである。其は一々顯微鏡檢査が缺乏して居るからである。然し之をするには一人には五時間六時間かゝる故に到底出來ない事であるから、顯微鏡を用ひないのであらうが、それでは檢黴は何の利益もないのみならず、有害無効であると云つても差支はない。尙檢黴に付て此外の調べを綜合して見るに娼妓に對する衛生的の監視、花柳病の檢査は、其方法が完全でない爲に有害にして無効になるのである。

尙婦人を檢黴して、之に接する男子を檢黴せぬと云ふ事も一つの缺點である。かゝる不完全なる方法で、九十プロセントは見落すと云ふのに、之は檢査をして置くから安全であるとの保證を與へて世に立たせて置くが、其實は病毒を持つて居る者であるから、檢査をなすが爲に却て害を與へると云ふ事になる。故に檢黴なる者は全然廢して終つた方が宜しい。少し此說を柔かにして之に學術的の改良を加へようとするのがナイセル先生などの議論である。然し此人々も結局は一種の絕娼論である。兎に角今日の醫學上から見て公娼を置くと云ふことは甚だ惡い事である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□尙畏るべき變性

尙又賣淫と云ふ事に於いて他に重大なる害がある。夫は此事が身體の上に及ぼす變性の働きである。是は前に述べた病患よりも尙一層患ふべき現象である。私は其害の畏ろしき事を見て茲に『絶娼論』を唱へて、之が全滅を期したいのである。賣淫は之を行つて居る間に自分の身體に變性を起すことである。然して此の變性者が多くなれば、社會は遂に衰へ且つ滅亡するに至るであらうと思ふ。其變性とはどんな者であるかと云ふに、第一に賣笑婦の行爲を長く行つて居ると女が男になつて了ふ。男になると云つても眞の男になるのではない男にも非ず女にも非ざる者になるので、之を第三性と云ふのである。プラシユコーと云ふ人の所に居た女中が習慣として賣淫をして居たが、數年の後には男になつて了つた。即ち乳が男子の夫の如くに小さくなり、聲は男の如くに太くなり其のみならず上肢と下肢とも男の其と同樣になつて了つた。之を詳しく話せば此外に種々の特點があるが、極く劇しく賣淫を行へば本統の男になるのである。そして尤も恐るべきは此く第三性になつた女は決して懷姙せぬ事になるが故に、社會上から云つて非常な害惡となるのである。故に第三性の女が多くなれば人民は益々減じて國民は遂に亡びる。其のみならず假ひ第三性の女から稀に子を產することがあつても、此に非常に惡い性質を與へるのである。其外の害を數ふれば放淫なる生活をすると忍耐力が無くなつて性慾を制裁することが出來なくなる。精神上意思が薄弱となる。生活のエネルギーを消耗し、一般に人間の羞恥心を減ずるのである。是は皆遊廓が社會に與へる害である。今世間幾萬の人間が變性しつゝあることを考ふる時は實に寒心すべき事であると思ふ。

□變性は進步に非ず

人間は古代に於ては獸の樣に四足で這つて居たに違ひない然るに追々進步發達して何時か立つて步く樣になつた。今日の足の指手の指などは皆獸の時代の遺物である。動物であつた時には食つた物を長く腹の中に持つて居なければならなかつた故に胃と腸とが出來て其が又非常に長い。然し人間が今日の樣になつてからは胃も腸もこんなに長くは要らぬ。故に胃を除くか、腸の一部を除つても人は死なゝい、彼の盲腸は人が獸で居た時には非常に役に立つたが、今では何の役にも立たない。斯くの如くに人間は其境遇に應じて益々適應する樣に發展して行く。此が即ち進化である。變性は此の進化とは全く異つて居る。人間が發達して行く中に不謹愼な不自然な事をすると通常一定の型から離れた物が出來る。之を變性と云ふのである。娼妓の變性は決して少くはない。此の變性者が增して來ると國民は亡びる。娼妓なる者も之を秘密に行はゞ變性者を出すことも少いが。政府が公然許可を與へて行はしむるに至つては其害は愈々多いのである。私は此の意味に於て絶娼論を唱へる。西洋の醫者は檢黴法は不備であるから娼妓を廢せと云ふ。私は其も勿論であるが、其外に此の變性の畏るべきを見て茲に絶娼を唱へるのである。（完）

雑誌の雑誌

○宗教

戰亂中の降誕祭　快堂

基督の降誕祭と世界の大動亂と、之を對象として見て如何に不調和を感ずることであらう。「天上とところには榮光神にあれ地には平安人には恩澤あれ」と平和の天使はとはに讃め歌ひつゝある。けれども今や天上の榮光は暗闇に掩はれ地には爭闘と憎惡と嫉妬と殺人とあらゆる罪惡が行はれ、人には恐怖と慘劇と飢と裸と叫喚と共に到りつゝある。斯る時にすら猶ほ平和の主基督の降誕祭に意義が見出されるであらう乎。何等の矛盾、何等の撞着であらう。是は誰しも起る懷疑である。失望である。嘲笑である。最早神無く、基督莫く、平和のイデアは幻と消失して仕舞つたのである。而も此の裡に尚ほ基督の降誕祭が其意義を認められなければならぬ、啻に之を認むるに止らず實に聲を大にして高調せなければならないのである。

プラトーはイデアの世界を明かにして吳れた。而して戰亂より得たる平和の觀念は彌々其高さと深さとを加へたのである。而して平和の主としてイデア基督の降誕祭は、愈々其の高さと深さとを加へなければならぬ。人間に於ける限定の勢力は奪ふ事は出來ない。けれども人間に於ける見えない世界、イデアの力は更に奪ふ事は出來ない。物質の文明は古來幾度か衰滅に歸した、歷史は其意味に於て幾度か繰返されたのである夫れにも拘らず精神の偉大は時代に時代を追うて進展しつゝある。或は時に衰滅に近づかんとして再び新たに生るゝ時に、より偉大なる大さを顯現し來つたのである。

斯の意味に於て世界の大戰亂中に於ける降誕祭に吾吾はより偉大なるキリスト降誕の耀を望み得なければならぬ。暗に耀く東方の奇しき星はよりあざやかに輝り渡らればならぬ。世界はより大なる平和を斯る大戰亂の中に望み得るのである。キリスト降誕の意義が永遠に平和の觀念であることによりて。基督は愈々世界に王たるの榮光を加へ給ひつゝある。嗚呼平和の君よ平和の主よ！(新人)

誤れる神觀と戰爭　小松武治

神の觀念の謬想は此度の戰爭を惹起した一因であると云ひ得ると思ふ。基督敎の神はキリストの父、萬民の父なる神である然に此神は舊約時代に於てはイスラエル民族と云ふ小範圍に限られた神であつた。此民族的神は戰の神妬の神エホバ神である。此舊約的神觀が動もすれば今日の世界に累を及ぼす事度々ある。

カイゼルは神は獨逸の守護神なりとし、ツアールも同樣露國を勝たしめ給へと祈り、英佛皆同樣の考を懷いて互に相戰つて居る。全能の神も之れでは何とも當惑せらるゝ次第であつて、忍ぶ能はざる事態に在ると思はれる。

自國の神として神を拜むは惡い事ではない。併し之れが爲め他を排斥する樣になつてはならぬ。各國共永い歷史を有つて居るので、神が特に自國を守り給ふた事を謝する餘りに、永く其神を自國の守護用にしたがる傾向がある。其結果我の彼を伐つは之れ神の意志を行ふなりと信ずるのである。歐洲列國は其弊に陷つて各自戰勝の祈を神に捧げつゝ戰爭を續けて居るのである。

吾人は國家的宗教を唱ふる餘りに、神をも國家と云ふ型の中に入れて、排他思想を增長するの危險に陷る事が頗る多いのである。之れ人類的新約的神を引き戻して國民的舊約的神となす事に當るのである。我國に於て動もすれば國家と宗教とを調和させやうと力むる傳道法を執る弊であるが。之れ寧ろ後日に危險の種を播くものである。宗教は超國家的のものであり、人類的世界的のものであるを忘れてはならぬ。

歐洲戰爭は或意味に於て人類の父なる神が、國家と云ふ小さい型に嵌めた現下の惡弊に對して發した怒りの結果であると云ひ得ると思ふ。神の觀念を正しくするは平和を維持する爲めの必要條件であると心得なければならぬ。(開拓者)

○婦人問題

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

婦人問題と基督教

法學博士 浮田和民

我國に於ける婦人問題は勞働問題同樣現今の日本に於ては婦人の如きは全く問題となつて居らぬ。若し何か婦人問題と名づけらるゝ者があれば、夫れは新聞、雜誌が、自家繁榮策のため、切言すれば糊口のために、或種類の婦人又は婦人等の輕佻浮薄なる行動を、問題として興味的に取扱ふのであつて、何の根底もなく、價値もない一片の遊戲に過ぎないのである。而して一般の人士は婦人に關しては全然舊來の固陋なる觀念を踏襲し、婦人の價値を認め之を尊重することをしない。故に西洋諸國に於けるが如き意味の婦人問題と云ふものは我國の現在の狀態に於ては有り得ないのである。之れは何故ぞと云ふに、右に述ぶるが如く男子が婦人の價値と自由とを認めず、婦人を以て男子の隷屬の如く思惟して居ることも其重大なる原因であるが、更に大なる原因は婦人自身が自己の價値を自覺しないことである。婦人が何時までも男子の附屬物たるに甘んじて居ることである。之れでは婦人問題の起りやうはない。されば今後の日本に於ける最も重大なる問題は婦人に對する男子の覺醒と、婦人自身の價値の自覺である。此問題が未解決の儘にある間は、日本は如何に物質的に進步するとも決して世界の文明諸國の列に伍することは出來ない。世界の文明中我國程婦人問題を叫ばねばならぬ國はない。然るに世の識者とも云はるゝ人でも、此問題の前には目を掩ふて居るのである。而して學者も、敎育家も毫も之を憂ひとなさず、女子の高等敎育に反對し、所謂賢母良妻主義を以て女子敎育の理想として居る。加之女子は男子の無智と暴慢とに服從し之を以て女子本來の運命の如くに考へ、現狀より脫却して向上進步しやうとはしない。而して偶覺醒を叫ぶ女性あれば其は男子に對する感情的一種の反抗にしても毫も健全なる精神と剛健なる意志に根ざしたるものでないのである、稍もすれば放肆に流れ女性の短所缺點を暴露し社會の顰蹙する所となるのである。斯くて我が國の女性は日進月步、駿馬の駈るが如き社會進步の眞中にありながら、昏々として長夜の眠を貪りつゝあるのである。この婦人の狀態に對し、眞個の同情を以て一面婦人自身の自覺を促し、他の一面に於ては一般社會の注意を喚起するはクリスチヤンの責務であると思ふ。此問題に就ては政治家も、學者も、實業家も、敎育家も聲を大にして云ふべき資格がない。甚だしきに至つては宗敎家――在來の佛敎其他の――も其資格がない然るに基督敎は過去に於ても種々の問題のために盡して社會人類の進步に貢獻して來たが、今日も確かに此問題を解決すべき鍵を握つて居る。基督敎本來の精神には確かに此問題に當り、その解決に任ずべき特權を有して居る。之は玆に管々しく云ふ必要はなからう。

之を要するに社會問題に對する基督敎の使命は極めて重大である。今日まで基督敎の使命は人の靈魂を救ふにあつた。即ち傳道本位であつた。併乍傳道は勿論大切なことであるが、夫れが基督敎の使命凡てゞはない。福音を說いて人を導くことは基督敎の使命の一つと思はねばならぬ。勞働問題、婦人問題の如きも基督敎當面の大問題であつて、勞働者、婦人の自覺を促し又之に對して社會一般を覺醒せしむることは、國家社會を向上進步せしむるのみならず、基督敎夫れ自身の勢力をも加ふるのである。

婦人問題と基督教

小山東助

日本現代の所謂婦人問題は、那邊に存在して居るか、予は之を以て直ちに歐米の夫と同列に見る事が出來ないと思ふ。けれども早晩同列に見ればならぬ日も來ると信じてゐる。現今の婦人問題は是將た社會問題と同じく婦人自身の自覺を第一義とする。婦人自身が男子の附屬物玩弄物なる境遇から脫却するの自覺と努力とを要する。人格の觀念、自治の工夫、夫が何よりも肝要である。自覺の曉婦人は如何なる事を考へ出すか、それは吾等の豫想する限りでないが、恐らく歐米婦人の先蹤を追ふ事であらう、是れ必ずしも忌む可きでは無い。婦人に人格の自覺なき爲に男女關係の混亂が依然として行はれ、家庭の神聖は根本から打壞されて仕舞ふ素より男子の恥辱であり專橫である、けれども婦人自らにして自覺なき限り男子の自律も容易に起つて來ない。如何に寬大なる君主でも人民の要求無き限り、參政權を與ふる者で無い。歷史が之を證明して居る。婦人自ら儼然として男子に對立せぬ限り、男女問題は長く混沌として殘るであらう。此點に於て予は基督敎の社會的使命が眞に重且大なりと思ふ。婦人彼自身の人格的自覺、そこに婦人問題の根本義が繫がる、而して之と一樣に勞働者自身の人格的自覺、そこに社會問題の根本義が繫がる。基督敎徒は少くとも此二大問題に就て、社會革新の急先鋒たる可きであるまいか。(基督敎世界)

哲學科學

我が哲學界の曙光

野村隈畔

日本人は果して最高思想の哲學における、低能的民族であらうか。徹頭徹尾、白色哲學の模倣、剽竊、受賣りを以て有頂天となる、先天的に度すべからざる民族であらうか。あゝ何ぞこの疑問の吾々日本人を侮辱するの甚だしきや。吾々の哲學的才能を疑ふものは即ち吾々の生活その

ものを疑ふものではないか。何故なれば、哲學は生活の源泉であるから。哲學なき民族は自覺なく根柢なく從つて生活なき民族である。先天的に摸倣の民族はこれ眞實なる生活を爲し得ざる民族である。いひ易へれば生活の低能民族である。存在の意義なき民族である。あゝ日本民族は生活の低能民族であらうか。否、斷じて否！

吾々の祖先は嘗て支那大陸の文明と共にその哲學を輸入した。次ぎには印度の文明と共に更に深遠宏大なる哲學をも輸入した。輸入の當時は外國崇拜熱は殆んど滑稽に近い程極端なものであつた。然れども幸ひにして吾々の祖先は、辛ふじて唐竺哲學の爲めに害せらるゝことを免れて來た。彼等の精神的同化力はよくこの輸入品を消化して來たのである。更に最近に於いては西洋の文明と共に、その一層複雜なる哲學をも悉く受け入れて今日に至つた。かくして吾々は隨分長い歷史を通じて祖先以來哲學の修養を積んで來たのであるけれども未だ嘗て自らの哲學を創造したことはなかつた。

ある人は日本民族の天職を解して東洋文明と西洋文明との調和に在ると言つて居るが、かゝる小なる問題は吾々の天職とするに足らないと思ふ。吾々はいつまでも模倣と調和と同化にばかり勢力を浪費すべきではない。吾々の勢力は實に創造に用ふべきものである。

東西文明調和して果して吾々の生活が向上するであらうか。印度や獨逸の哲學を結合して吾々の滿足する哲學が生ずるであらうか。吾々は今まで印度や西洋の哲學を是れ日も足らず研究して果して何物を得たであらう。果して如何なる點を感心したであらう。吾々の生活は是等の哲學によつて如何程まで刷新されたであらう。予の答へは斯うである。『何者も得る所はない。何物も感心しない。そして生活は少しも刷新されない。吾々はたゞ唯一の吾々である。元來眞の哲學は世界の思想上に未だ存在しない。これを創造し建設するのは吾々日本民族の力である。而してこれは正當な眞面目な自覺である」と。

見神、幽靈、妖怪の解釋

松の里人

潜在意識といふ事は、妖怪、見神、幽靈等今迄の科學の解決する事の出來なかつた事柄を科學的に說明する事が出來る外（尚充分科學的といふ事は或は出來ないかも知らぬが）日常生活とも種々興味ある關係を持つて居る。

前例のシー孃の見神の場合の如き、モルトン、プリンス博士は孃が煩悶中、キリスト又はマドンナを見るのは、潜在意識が自覺意識に向つて今お前の求めて居る所を知らしてやるぞといふ前ぶれで、其まへぶれが比喩的にキリスト又はマドンナとして現はるのだといふような事を述べ、次で潜在意識が意識中に現はれて忘れた事を思ひ出さしめるのだと說明して居る、此の外神が現はれゝば可いといふ忘れられたる希望、又こういふ神が現れるといふ話しが視覺に變じて現はるゝ見神の場合もあらう、そして神のおつげといふ事は紛失した物が發見さるゝ場合の如きは潜在意識其儘發現でお告げの通りに行つたら成功したといふ如きは潜在意識が知識となりそれが神意として現はれたのだといふ事が出來る。

或る旅館の一室に於て夜中美しき女の幽靈を見、後で、聞いて見ると、其室で若い美しい女が自殺した事があるとか、殺された事があるとかいふのは、其事を知つて居る旅館の主人の心が客に睡眠中に通じたのだと解釋するよりか、旅客が女中からか誰からか其話しを聞いたが、忘れて、仕舞つて居た、其忘れた聽覺の潜在意識が視覺となつて現はれたのだと解釋する方が正當であらう。或る淋しい林の傍で妖怪を見たが、其所は昔から、そのような妖怪の出る所であつたといふが如き事も、そんな妖怪の出る話しを聞いたのを忘れて居たのが、其の場所に刺擊されて視覺に現はれたと解する事が出來る。幽靈も多くかゝる原因であることは前例のホーフンド君の場合の證する通りである。易に依つて紛失した物が發見さるゝのが實際ならば、其は易を見てもらう者の心中に其紛失した物の有場所が潜在意識として存して居て、此場合には其の潜在意識が無心の易者の心に通じたと解されない事はない。夜中寢て居る場合自己の身體の位置の甚しく變つて居るのを妖怪の所爲とさるゝ事があるが、此れも傍らに寢て居る夫とか妻とかが意識する事なく夢中に行つた行爲たるや明かで、若し催眠術で訊すならば夜中妻の脚を捉へて寢床外に、引出したといふやうな潜在意識を話すに相違ない。（廿世紀）

（○社會）

性慾と人生

岡悌治

●性慾の目的は何かといへば、種族存續の爲である。即ち子孫繁殖の爲なるは言ふ迄もない明かな事である。此の生存競爭の烈しい生物界に於て、若し性慾を種族存續の爲に用ゐず、單に自己の快樂の爲に用ゆるものがあつたならは其生物は直ちに絕滅されて仕舞ふ。されば植物界に於ても動物界に於ても、兎に角其生存を保ち得て居るものは其性的行爲は種族保護を目的として居る。美しき花、樂しき鳥の囀り、皆人の耳目を樂しましむる爲めものにあらずして、各自の種族存續の爲めなるは世人

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

の熟知する所である薄暗き夕に開く花が、最も虫類に目立ち易いように白色又は黄色なるも是れが爲めである。猶仔細に研究すれば、植物に於ても動物界に於ても此現象は尚顯著である。

花柳界之何の爲に存在して居るのであるか。花柳病を以て國家滅亡せしむる爲といふ以外、其理由を發見するに苦しむのである。一學者は苦痛の必要なる例として、胃や肺は感覺が殆んど無く苦痛といふ事を知らない。若し、もすこし感覺が發達して居て、不消化物或は好く咀嚼せざる食物を胃に送れば直ちに胃が痛みが感じたならば、胃病の爲めに苦しむ者も死ぬる者も非常に減少するであらう。肺も黴菌に少し犯されれば痛みを感じたならば此が豫防も充分に出來直に治療に取りかゝるから其れが爲に死亡するものもないであらうと述べた。戰場に於ても彈丸で死ぬる者より黴菌の爲めに死ぬる者の方が數倍多いが、此れ彈丸に當れば痛いけれども、黴菌に當つても痛くないからだと。

花柳病は此點に於て痛くない黴菌に類似し、ペストなどは痛い彈丸に似て居る其れペストだといへば政府は鼠を一匹五錢や十錢で買ひ、家を燒き商業を杜絶し大さわぎで其撲滅を計るが、花柳病は現に痛くない即ち直ちに社會を滅ぼさないものであるから、政府は撲滅を計らないのみならず、よいかげん檢黴といふ事で花柳界の存在を許して居る。其ればかりでない遊廓の必要を唱へる者迄現はれるといふ有樣である。

國家を滅ぼすものは敵國よりか花柳病の方が恐るべきものである。花柳病を撲滅するには現今の社會組織を變更する必要あるは勿論で、吾人は政治教育と其性慾教育の急務を絶叫して、以て社會の革新を行はんと欲するものである。(第三帝國)

此覺悟で就職難に當れ

文部大臣 一木喜德郎

此頃大分其方此方に就職難の聲を聞くが、其等の人々はやはり昔の狹い考へで居るから、そんな弱音が起るのだと思ふ。吾人の活動範圍は一局部に限らぬ。如何なる方面にも存在するものであると思へば、そんな弱音は起らない譯である。

自分は嘗て法科大學生に話したことがある。日本の郡の數を數へると、先づ全國に五百幾つある。一郡に立派な人が一人出來て、其人が民心の啓發示導に力めたならば、國家の發展を計ることは大して六ヶ敷ない現今隨分中央には、あり餘る人があつても、地方には極めて少い。今大學に就いていへば、法科丈でも四百人の人がある。之が同盟して地方に活動するとしたならば、地方の開拓は極めて容易である。諸君は一つ中央に向つて同盟罷業をしたらどうかと、笑ひ話しに言ふたことがある。

之は法科のみに限らず、凡てに於て同樣であると思ふ。例へば醫者の如きも、中央部にはあり餘つて居るが、まだ隅々には行き亘らない。殊に社會的の學問をやつた人物の分布の如きは、まだ〳〵、どうも片寄つてゐる氣味がある。故に各人は狹い局面に齷齪せず、もつと廣大なる局面に眼を注ぎ、活動の範圍も、活動の舞臺も廣く且大であることを思ふて、各個に獨力、己が運命の開拓に力めたならば、就職難なぞといふが如き弱い叫びは絶對に起らぬと思ふ。斯く論じて見れば吾々時代の學生も、現今の學生も、さのみ就職の方面に於て大差はない。其上學問は吾々時代より樂に出來るから、若し其缺陷たる精神修養を怠らなかつたならば、今日の學生は實に申分ない、幸せなものと思ふのである。(實業の日本)

今後に處すべき日本の覺悟

文學博士 澤柳政太郎

既に列國は機會だにあらば日本に大打擊を與へ、再び發展し得ぬ程度まで苦めたいといふのが其希望でありとすれば、日本は實に空前の危險なる位地境遇に立つものである。この時に際し日本が處する方法は外交其他姑息の方法を以てするも恃とするに足らぬ。唯々自分自身の力を恃むの外ない。恃むべからざるを恃むは大なる危險である。日本が孤立的位地を保ち、四面に敵を受けながら進歩發達するだけの實力ありや否や、余は遺憾ながらそれ丈けの實力がないと思ふ。然らば外に賴るべきものなく、內に恃むべき充分の力なしとせば、これ實に危險に瀕せるものである。衰滅の外ないのである是に於て日本の青年は將來非常に努力し嘗て爲したことなき努力、將來も再びせぬ樣な努力をなし、以て急速に日本の實力を增進し、自分自身の力で四面包圍の中に立ち、能く獨立の體面を保つだけにならねばならぬ。若し之が不可能であるとすれば日本は自ら己を支ふることが出來ぬのである。故に如何なる艱苦を嘗めても國民は其實力を增進せねばならぬ。實力備はつて始めて外交上に威力を振ひ、實功を收むることを得、實力を後援とするにあらざれば、如何に卓絕せる外交家も以て其力を伸ばすに由がない、強て術策を弄せんとすれば危機立に至る、今日の我國は外交其他は末にして實力を養成するとが大本である(向上)

○家庭と修養

人格訓練としての結婚

鳩山春子

吾々の結婚生活といふ事に關しても、その觀察の點を變へて見ますならば、結婚は人生の最高なる幸福への捷徑として考

へるよりは、寧ろ相互の人格を訓練する最良の機會を與へるものとして考へるのが正當ではありますまいか斯ういふ風に考へてこそ、始めて彼の不幸なる結婚生活を巧みに善用することも出來るでありませうし、又結婚の實際の目的にも叶ふこととなるでありませう。果して然うでありますならば、此の人格訓練といふ精神を以て結婚する人は、彼の幸福といふ事のみを以て結婚の唯一の目標、即ち決勝標として出發する人よりは、一層有功に、そして一層正當に結婚の目的を達する見込があるとも言ひ得られるであらうと思ひます

總ての幸運が必ずしも人を幸福に導くものでない樣に、總ての惡運も亦必ずしも人を不幸にのみ陷らせるものとは限りません。否、多くの場合に於ては、惡運が轉用せられて却つて幸福を生ずることゝなるものであります。故に結婚も之を人格訓練の最好機會として見ますならば、一般からは如何にも不幸なる結婚であると認められて居るものでも之によつて却つて結婚の眞價を發揮することゝなるかも知れません。而して斯かる人こそは眞に結婚の最も貴き犧牲で、又最も貴き勝利者であります。

或時大勢の宗教家が集つて祭典會を致しました場合の、トースト(祝詞)の一つは、「吾々の妻」といふのでありました。ところが其の中の一人に、餘り氣立の優しくない細君を持つて居て、いつもよく細君のために惱まされて居るのがありましたので、これに戯れて、「君の樣に始終細君のために苦しんで居る者でも、矢張盃を擧げて妻の健康を祈ることが出來るか。」と申しました。すると此の男は直ちに答へて、「然うとも、余は心から妻に感謝して居る、余の妻は少くとも一日に十二回位余をして跪いて神に祈禱させて吳れる。即ち妻は屢々余の感情を傷けようとするので、其の度毎に神に祈禱して余に強き忍耐力を與へて貰ふやうにして居る、恐らく諸君の誰もが、此の樣に神に祈禱する多くの機會を持つて居る人はないであらう」と申したさうであります。これ即ち妻の缺點が夫の人格を高むる所の一つの動機となり得たのでありますが之は移して以て妻たる者が、夫の苛酷なる場合に、神に祈禱する事にも應用されます。

淑女と品性

文學博士　三宅雄二郎

如何なる者が淑女であるかと言へば、大僧正ニユーマンがゼントルメンに就て言つた所は、寧ろ淑女に當はまつて居る。ゼントルメンは何人にも苦痛を與へぬものである。人の困るやうなことをせぬ。弱い者をいたはり、羞しがる者に優しくする。自分で出しやばらぬ。人に施すとき貰ふやうにする。といふやうなことを言ふて居る。一口に言へば、溫良恭謙讓であるが、斯るは男性として足りぬ所がある。併し女性として性も望ましいのである。下流社會でも斯る形跡あるのは、宜しく淑女と看做すべきである。

而して品行の如何は、言ふまでもないことであつてニユーマンが特別に品行のことを言はなんだのは、言はずとも知れて居るからである。女性に於ては尙更のことであつて、啻に現在の品行を看のがすことが出來ぬばかりでなく、過去の事も勘定の中に入れねばならぬ。今は見上げたやうになつたといふのは結構であるけれど、以前不仕鱈であつたことの明かであつては、模範的女性として人の前に出すことは出來ぬ。況て現在不身持なる者は、淑女ごころでなく言語同斷の者である。

君子といひ淑女といひ、貧富に關係はない。貧にして君子たるに少しの妨げがない。歐洲の貴族からしてゼントルメン及びレデーが出て、漸く品性に重きを置くことになつたのと違ふのは、支那が種々の文明的事業に於て先驅したのに伴つて居る。支那は實に他に先んじて文明に赴いて居る。唯其の著しく進歩せず、動もすれば退歩して他の國に追ひ越されて了つた。併し夙に君子といひ淑女といひ、家庭の美を謳つて居る。

淑女といふは好い語である。三千年來傳つて今尙ほ新しきを覺ゆる。レデーの貴族出なるに優つて居る。君子の語を紳士に取替へられたが、淑女の語は別段取替へるに及ばぬ。唯淑女の語がどれだけ擴まるかゞ言ひ難い。次第に普く廣まること、現に紳士の語の行はれるが如くなるであらうか。或は唯作文に使はれ、事實に於て廢滅に歸するのであらうか。女性に進歩の跡の歷々たらば、淑女といふが擴まるべきである。之が何の邊まで行はれるかで、女性の力を計ることが出來る。(婦人の友)

自己の心を明めよ

釋宗演

心を正うして行く方法と云へば、先づ自己の心を明むるとである。自ら善く反省して實際に究明するときは所謂道は邇に在つて極く手近い簡易なものである。

昔或る僻田舍に夫婦のものがあつたが、その夫が何か用事が出來て生來初て東京の樣な都に上つた、して銀座の樣な賑かな通りに出ると見るもの聞くもの皆新奇なもの許りで呆るゝ位であつたが、或る鏡屋の前にやつて來て不圖店頭の鏡に寫つた自分の姿を凝と看て「ヤレ親父さんか懷しい」といふて泣くやら欣ぶやら大騷である、漸く番頭に聞て一枚の鏡を需めて歸國したが、何より大事な品物であるからと思つて妻にも知らせず潛と簞笥の中に納めて置いて時々之を眺めては獨欣んで居つた。すると妻がいつしか其の樣子を怪

んで夫の留守に箪笥を開けて見た、ところが鏡に女の顔が寫つたので是亦喫驚して夫が都から情婦を連れて來たと思込み遂に一場の悋氣嘩喧が始まつた、ところへ折よく平生懇意にする尼僧が來合せて仲裁した、兎に角私が調べて上げやうと云ふので箪笥を開けてみれば今度は尼の顔が寫つた、すると尼が「見なさい先きの情婦が發心して尼となりました」と云つたといふ話がある。是は佛經中にある話で一切萬端皆吾が心の影である事を比喩へたのであるが、吾々は心を正うするには先づ主要として極く手近い處に在る自己の心を究明すれば一切萬端に對して心は自ら正しくして、而して社會は根本より改善せられて來るのである。(日本の家庭)

時局と婦人

下田歌子

時局に就て吾々婦人が今後はどう考へ、どう致したら可いかと申す事に就いて、御相談する事と致しませう。「良將は敵にも學ぶ所あり」とは誰やらの申した言辭で御座います。我々も亦敵ながらも、矢張り獨國にも殘念ながら學ぶ所がなければなるまいと存じます。其は從來も幾多の新聞や雜誌やで傳へられ、又近くはう〳〵の目に合ふて歸られた人々さへ、口を極めて驚歎せらるゝ所で御座います。其は何かと申しますれば、獨逸婦人の長所に大いに執るべき所があると存じます。彼等は徒らに婦人參政權問題などに騷ぎ廻つたり、無暗に男子の學ぶべき方法の至難な學問をしやうとするやうな事を後にして、寧ろ家庭の改良に整頓に汲々として活動し、尚且女工に園藝に其の餘力を盡し、內は家産を充實し、外は國富を增進し、一旦緩急あるに至りては、其の戰場に赴く所の、親や夫や子を勵まして、君國の爲に斃れよと、勵まし、勸め、從來男子の服したる勞役に迄たづさはりて、毫も疲るゝ色無しと云ふに至つては、實に恐るべき國民であると考へました。

以上の事を綜合して、私は何だか幼少の頃の我地方藩士婦人の面影に髣髴たる感を禁じえませぬ。希くは爾今以後吾等社會に於ける舶來品の缺乏なる自然的訓戒を機とし、吾人は勉めて他人を賴ますとも、國內の同胞姉妹の力に如何なる物をも造り出し、如何なる事をも引き受けて、見事爲し遂ぐべしといふ精神と實力とを養成し、心身の健全をはかりて、大に有爲有望の國民たる事を、益々吾人各自に確信致したいものと存じます。(道)

醫師いらずの簡易療法

▲喘息　金柑の皮を煎じ、お茶の代りとして飲む。

▲吃逆止め　串柹の蔕を煎じて飲む。

▲蚋にさゝれた時　串柹の切味をなすりつける、笠置溫泉地方には蚋多き故、常に串柹を瓶詰めとして保存せり。

▲打身　片手にて握れる丈けの大さの鮒を、生のまゝすり身にして局部になすりつける。

▲火傷　灰を酢にてゆるめ、紙にてはりつける。

▲小便の通じ惡しき時　忍冬の葉を煎じて茶の代りに飲む。

▲痙攣　油虫を入れて煮たる麥飯を、踵の眞中にはりつける。

▲乳房のこり　山芋をすりつける、芋の刺擊によりて血の廻りをよくす。

▲脚氣　葦の根を煎じて飲めば大抵は全治すと云ふ。またコクワの實を煎じて飲むもよし。

▲咽喉腫　感冒にて咽喉腫たる時は、成實したる南天の實を五六粒宛二三回服用すれば直る。

▲感冒にかゝりたる時は、葱を刻み、熱湯を注ぎて飲めば發汗して効あり。

▲瘭疽　にて指の痛む時は蚯蚓の皮に黑砂糖をつけて卷き置く可し。

▲凍瘡　には毎日湯に入り、烏瓜の肉をすりつけるか若しくは鷄と種子油とを混ぜたるもの、或は熊の油を塗布す可し。

▲下痢　烈しき時は、白木槿の花瓣を取りて潰し、飯にて餅の如くすり合して食すればよし。

▲蟲類に螫されたる時　飯匙蛇草の葉をもみてすりつける。(この草は彼岸の頃蒔きて栽培す可し、秋豆の如き實を結ぶ故之をとりて蔭干にして貯へ置き、必要の時、嚙み碎きて患部に塗布す可し。)

▲乳なき時　は鯉を煮て食す可し。

▲出血　を止むるには、蕗の葉、紫蘇の葉、韮の葉をもみ其の汁を塗布す可し。

▲絛蟲　を豫防するには平素より鯣を食す可し(生活)

◦お正月

カルタ遊びの是非

高島平三郎

人に依ると、カルタ遊びは夜を更かすから衞生に害がある、男女混合でやるから風俗が亂れる、之れは是非何とか改良しなければならぬといふ者がある。然し私の考へでは、カルタ取りは如何しても夜燈火の下で爲すべきもので晝間やつては情味が甚だ薄くなる。そればかりでなく冬の夜は長いからゆつくり遊ぶのに適してゐる。疊を強く打つ爲めに、塵埃が舞ひ上る、其の中で呼吸を凝らして俯面加減になつてゐるのは確かに惡い、之を防ぐには疊の上に厚い油紙(夏の敷物にする)を敷き詰

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

めれぱよい。

それから男女混合ではいけないといふのは、餘りに愚な話で、却つて男女が交り合つてゐるので剛と柔とが調和して一種の情調を添えるのである。家庭でやる場合には其の組の中には無論一人や二人の年寄りがあるだらうし、その人が萬事を監督し指揮して行けば、そんなに間違ひなど起るもではない。

又た小倉百人一首は餘りに戀歌が多くて、青春の血の漲つた若い男女には如何もよくあるまいなど、考へてゐる人もある樣であるが、その代りとして道歌の樣なものを讀み上げたところで、百人一首と同じやうな情味は到底湧いて來ない。何しろ百人一首は歴史的のもので、上下の階級の人を網羅し、その詠んだ人物と歌との間に密接な關係があり、他の和歌の及ぶべからざる所があるのである。加之、幼少の時から聞き馴れてゐるから、自分が何歳の元日にお母さんが讀み役であつたとか、亡くなつた姉さんは「我が袖は汐干に見えぬ……」の歌が好きであつて、この札は一度も取損つた事はなかつたとかいふやうなことを、後々までも思ひ出して、故人を偲ぶよすがともなり、一種の感情教育を自然に爲すことにもなる。其他記憶力増進の一助にもならない事はない。(實業之世界)

正月から嘘をつかぬ

田川大吉郎

私は倫敦に行つた時に、買物をして値切つて見たことがあります。倫敦邊では懸値は云はないので、同行の友人は頻りに私を止めましたが、私は態と方々の店で度々値切つて見ました。店の者は無論言下に「負りません」と答へますが、「負けなければ買はない」と云ふと、サツサと奥の方に引込んでしまひます。或店では「さう因却に云はずとも、負けて買つた方が德ではないか」と云つて見ると、店員はたゞ一言に「事務的です」といふ。此「事務的」と云ふ言には正直確實簡易等の深長な意味があつて、懸値を云つて押問答するのは、事務の進捗を妨げるといふ意味の外に、誠實でない、正直でないと云ふやうな意味を含んで居るのだと思ひます。

倫敦のベンネツトと云ふ時計屋に行つた時に、日本の遞信省の人が來て居て、瑞西で百圓で買つたと云ふ金時計を出して、ベンネツトの二百五十圓と云ふ金時計を高いと云つた所が、その店員は之に對しては、一言の辯解も試みず、只「これは英國製です」と答へました。この一言は彼等英國人が決して僞らないと云ふ自負心から出たもので、その正直な生活から溢れて出た權威ある言葉であります。

英國人が斯く嘘を云はない、僞らないと云ふ氣風は勿論子供の時から訓練されたもので、その背後には宗教と云ふ一大勢力のあることを認めればなりません彼等は母親の膝の上に抱かれて居る時から、僞らない母の生活、敬虔なる祖母の宗教的訓練によりて、生命にかけても嘘は云はないと云ふやうに育てられ、それが今日の國民性を形造つてゐるのです。年の始めに當つて、お互に僞りのない、嘘のない眞面目な生活をする事を誓ひたいものだと思ひます。(婦人の友)

○談叢

一兵を斃すに要する戰費四萬圓

戰爭に於て一兵を斃すに要する戰費幾何の計算問題は興味あることなり、ベルセン將軍は自國の戰費と敵の死亡者數より計算して平均一人の殺生費三萬餘圓と計上せり、米國の一新聞記者も近代の戰爭に於ける一人の殺生費用三萬圓内外と計算したる由なるが、普佛戰爭、露土戰爭及び日露戰爭に於ける各國の戰死者數と軍費とより割出す時は、一人を殺すに普佛戰爭にては四萬二千圓露土戰爭にては四萬五千圓、日露戰爭にては大約四萬八百圓を費せる割合なりと云ふ。

戀愛の黴菌を研究

戀は四百四病外の病氣で、醫師もこれを治することは不可能なものである如く云ふが、伊太利の醫師パレツト氏は病氣としての戀愛を研究して次のやうに云つてゐる、戀愛といふものは、神經中樞の痲酊であつて、それが爲めに血管は非常に影響を受け、殊に患者が若年にして最初に此の病にかゝた際には、殊にそれが甚しく、何れにしても戀愛病に罹つたものは研究して見ると、著しく白血球増加を來し、急速に治療せざれば生殖器神經衰弱症を來し、甚しきに至りては狂人ともなり、また結核病に罹り易からしむるものであると、かくてパレツト氏は此の治療法の研究に從事しつゝあるがまだ其の黴菌を發見するに至らない。(青年及青年團)

郵便局笑話

▲三里ばかり隔つた村の男が窓口に來て葉書五枚を買つて七錢にまけて吳れと言ふ。局員はまけることはできませんと應へると彼の男何處までも眞面目に「俺の村で買つてせえ、五枚なら七錢五厘で大威張だ、態々此處まで出て來て買ふのぢやもの男らしく七錢にまけて吳れ……」(信濃)
▲先達て村の老人が、毎日電報は何本くらゐありますかと問ふたので、二十本位あると應へてやつたら先生感心して「へえ、一日二十人餘も死ぬと見えますなあ……」(三河) ▲一人の老婆、古葉書を一枚吳れと言ふ。何故かと訊ねれば古いのなら割引きで買へませうと言ふ。(兵庫)(遞信協會雜誌)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

新年と修養

救世軍書記長官
廓清會評議員　山室軍平

□「大晦日」の貼札

昔或る商人が、元日の書初めに『大晦日』と書いて、其紙を店の大黒柱に貼り着けて置いた。ところがどうしたものか去年迄は帳面の締括りが旨く行かず、支出が夥しかつたのに、其年からは帳面も完全に括りが出來、收入は殖えて支出は減つた。併もそれが五六年も打續いたので忽ちにして一廉の富豪となつたさうである。それなら『大晦日』と書いて大黒柱に貼つたのが繁昌の呪になつたのかといふに其麽譯のものではない、大晦日はすべて商人にとつて最も大切な最も忙しい、從つて最も機敏に有效に立ち廻らなければならぬ日である。日頃は餘り勤勉でない者も、此日ばかりはじつとして居られず、一日の大活動を試みて過去一ヶ年の纏まりをつけ、樂しい正月を迎へやうとするのである。然らば一年三百六十五日毎日々々『今日は大晦日だ』といふ心持で働いたなら、一年の終りに怎麽に大きな結果が生れるか想像するに難くないではないか、此の商人は右の點に眼をつけ『大晦日』の文字を書初めに書いて大黒柱に貼り、自分や店員の規箴としたのであつた。

□禁酒の生活

一年の計は元日にある。本年中の修養を如何にしたらよいか、平素考へて居る處を五六ヶ條述べて見やうと思ふ。第一に禁酒の生活をしたい。元日にはお目出度いといふて屠蘇を飲み、三月には花見だといふて白酒を酌み、五月には菖蒲酒、九月には菊酒、さては月見酒、雪見酒、年末は忘年會だといふ、産れたといふては飲み、死んだといふては飲み結婚しては飲み、飲んで喧嘩して仲直りと云つては飲み、飲んでは又喧嘩をする年が年中斯うして飲み續けて、身體と經濟と徳義を打ち壞してゐるが、一年の第一歩の元日から醉拂つて赤い顔をして、ふら〳〵した頭で考へた所で、善い分別の出やうはない、眞に元旦の門出を善くしたいと思ふならば、是非とも酒を呑まないで、人生の一ヶ年の門出をしなくてはならぬ。

□讀書の習慣

第二に、元日から何か有益な書物の讀み初めをやつて、少しづゝでもよいから此習慣を年中續けたいと思ふ。例へば基督教信者ならば聖書を繙き、儒教を奉じてゐる者ならば論語を讀むといふ風にし其他誰でも適當な修養書を讀み續けるのである、我々が毎朝顔を洗ひ鏡に向つて髮を梳るのを忘れないやうに、有益な書物を讀むといふ事を必ず毎日實行したい

□時間の利用

第三には、巧みに時間を利用して之を浪費しないやうにしたいと思ふ。それに

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は一日の時間を如何樣に用ゆべきか、豫じめ年の始めに其用ゐ方を定めて置くがよい、例へば午前中は何々、午後は何々夜間はこれ〱の仕事をするといふ風に一日の日課を作つて置くのである、更に又た一週間の日課表を作つて之を實行するといふ事も必要であらう。尤も複雜な人世の事は、左樣に杓子定規には參らぬであらうけれど、要するに時間を浪費しないといふ主義を堅く守つて居つたなら僅少な時間を利用して大事業を爲し遂ぐる事もあながちないとは限らぬ。

人間はよく新年を迎ふる毎に、殊更らしく指折り數へて其老ひ行くを歎つものである。が實は一年目毎に年齡を取るのではない、一日々々否な時計の秒を刻む程に老ひつゝあるのである。一年の終りに老を嘆ずる者は、毎日の時間を浪費するに於て其感が深いであらう。

故ブース大將が、先年我が國に渡來せられて演說された中に、「私は日に三度自己を省る」と申された事があつたが、大將はお晝過ぎになると『ブースよ汝は今朝如何なる善事を爲したるや』と自ら尋ね、夕方になると『汝は今日午後如何なる善事を爲したるや』と問ひ、夜就寢する時には『汝は今日を通じて如何なる善事をなしたるや』と自問自答して、其爲せる善事の少からん事を恐れて居られた此話を當時東京市長であつた今の尾崎法相が聞かれて「ブース大將の偉大なる所以は全く茲にある」と嘆稱されたが、實際大將が時間を惜しまれた事は何に比べやうもない、山なす黃金に比べやうとしても、大將は黃金など眼中になかつたのであるから比較にもならない。

翻つて一般世間を觀察するに、或は碁を打ち、玉を突き、劇場に浮かれ、娼婦に戲れて千金にも代へ難い尊き時間を空費してゐる。私には斯ういふ人達の心持が解せられない。どうか新年の最初に於て時間を利用する方法を考へ、巧みに之を實行する樣にしたいものである。

□勞力の經濟

第四には、勞力を經濟的に用ふる事を工夫したい。古人は『爲すある者は爲さざる所あり』と云つて居るが、一事業に從事する人は、他方に何かしない處の事がある筈である。昔一人の坊主が『僧侶といふものは種々の階級の人に交際し應接せねばならぬものであるから、種々の藝に通じ樣々の趣味を知つてゐなければならぬ』といふ考から、茶の湯、活花、謠曲、碁將棋、書畫骨董、刀劍の類に至る迄一通り研究して、それから經文の稽古をしやうと思つたところ、一生經文の稽古をする閑はなかつたさうである。

論語に『知らざるは知らずとせよ是れ知る也』とあるが、無駄な事を知る必要はない、知るべき事だけを辨へ、爲すべき事だけを爲すべきである、之が即ち精力の利用である、人間の精力には限りがあるから之を經濟的に用ひ、餘計な事に費さない樣にせねばならぬ。

□金錢の善用

第五には、金錢の利用といふ事に注意したいと思ふ。さる西洋の學者が「金錢は品行なり」と言つたが、之は頗る面白い言葉である。實際人は金錢の使ひ方で其品性を知る事が出來る。美酒佳肴に飽

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

き美服に身を飾らん事を庶幾ふものは多いが、同じ金で、澤山の不幸な人達を幸福にする事を考へる人は少いのである。前者の如きは眞に金の使ひ道を知つてゐる人といふを得ぬ。

昔一人の非常に道樂な若者があつた。或年の暮に其父に向つて『何卒春の晴衣を一枚私の馴染の女に拵へてやつて下さい、私はそれを手切れにもう放蕩は止めますから』と誠しやかに申すと、父は直に其願を容れて呉れたので、若者は心中私に喜んで『うまく騙してやつた哩、あの可愛い女と手を切る事が出來やうか、晴衣を呉れて喜ぶ顔が見たいのだ』と春の來るのを待つてゐた。やがて正月になると父から着物が出來たから見に來るやうにとのことに、喜んで父の部屋に這入つて見ると意外千萬、定めし立派の品であらうと思つたのに、これはまた木綿の揃ひの着物が十枚ばかりも重ねてあるのであつた。呆氣に取られた若者は、どうした譯かと聞いて見ると、父は答へて『お前の馴染の遊女に遣る一枚の晴衣の値でこれ丈の丈夫な木綿着物が出來る、之を家の召使や出入の者にお前からだと云つて一枚宛與へたなら、それこそ皆が心から難有く思つて『若旦那々々』と敬ふであらうと云つた。而して其木綿着はそれぞれ分配されたので、若者は遊女への當てが外れた代り、店の内外から信用と尊敬を得たといふ事である。

同じ金でも死金を活かせば幾何でも善い事が出來る。大連の婦人ホームに引取つた幾百人かの婦人に對して平均何程づつの救濟費がかゝつてゐるか調べて見ると、世話人たる受持士官の手當其他までも加算して、正業に就かすまで平均一人につき十五圓かゝるといふ事が分つた。十五圓で女一人を墮落の谷底から救ひ出されるとは實に廉いものではないか、虚榮に富んだ婦人が流行の帶地を買ふとすれば十五圓はおろか、五十圓も百圓もすぐ費されるのである。

廓清會の贊助會費の如きは僅に年參圓である、正會員は僅に六拾錢である、其金が此の大切な運動を進めて行くのであるから、會員諸君は奮つて同志の士を募つて本年は特に此の廓清の大運動に光輝ある働きを遂げさせなければならぬ。

□人格を養ふ年

最後に今年は人格を養ふ年にしたい。

彼の佛蘭西のジャンジャックルーソーは當時の貴族を評して『彼等は人間から墮落して貴族になつたのだ』と言つたが、之れは當時の貴族なるものゝ品性が下劣で、貴むべき人格がなかつたのを罵つたのである。然るに今日の我國にも人間から墮落して實業家となり、政治家となり官吏となり、富豪となつてゐる者が甚だ少からぬ樣に思はれる。併し乍ら我々は徹頭徹尾人間に相違ないのであるから、何卒人間らしい人格を有つ樣に修養したいものである。

殊に我廓清會の人達は自己の純潔の德を押し及ぼして、一人にても他人の節操を蹂躙するが如きものゝなきやう德化して小は一身一家の爲め大にしては國家社會の爲め盡瘁したいものである。

▲別項廣告山室氏著「社會廓清論」は本部に申込む者に限り特に二割引にてお取次すべし。

▲本誌三卷一號及二號を送られたる諸君の好意を謹んで感謝す。

會報

滿洲廓清の烽火揚がる

▲本會滿洲支部の發會

昨年の夏益富理事が滿洲各地を遊說せしより、廓清會員も次第に增加し支部の必要を生じたりしが、是迄設置の運びに至らざりしは遺憾なりとし、大連に於ける救世軍婦人育兒ホーム監理田口中校と、大連慈惠病院理事柴田博陽の兩氏は、豫々支部開設の運動中なりしが、近來殖民地の風紀益す弛廢し支部の必要痛切に相感じ、兩氏相携へて有志を訪問し意見を交換したるに、遼東新報社、滿洲日々新聞社の如きは大に聲援し、漢字新聞泰東日報社長金子雪齋翁も卒先して同情し大に援助せし爲め、兩氏は非常に勇氣を得て、十二月二十二日を卜し大連敷島町青年會館に發會式を擧ぐる事とし、左記の趣意書を發表せり。

滿洲支部發會式趣意書

社會に於ける總ての弊風を矯正し男女間に貞操の德を進め賣淫公認制度を廢止するは我國に於ける最大急務にして此際正義の遂行を希ひ一片憂國の志ある人士の奮勵努力を要するや大なり玆に廓淸會滿洲支部を開設し廣く南滿に同志の士を募る願くは覺醒せる諸君男女を問はず老幼を論ぜず將た又宗敎の如何に關せず速に本會に入會せられよ蓋し之れ國家社會のため也同胞のため也人道のため也

大正三年十二月

廓淸會滿洲支部

發會式順序

大正二年十二月二十二日(火)午後六時
大連敷島町基督教青年會館にて

司會者　大連慈惠病院事務理事　柴田博陽

第一部　發會式

一、趣意發表　一、支部規則編成
一、役員選擧　一、祝辭祝文朗讀

第二部　演說

△廓淸の意義　泰東日報社長　金子雪齋
△題未定　醫學博士　河西健次
△男子貞操論　榊原農場主　榊原闘南
△青年の覺醒を促す　工學士　石塚受祿
△先づ禁酒せよ　三好病院長　三好三郎
△賣淫公認制度廢止論に對する誤解を辯ず　救世軍遼東部長　田口富藏

然るに折惡しく此日に限り朝來より天候劇變し、零度以下八九度の極寒となり朔風凜烈肌を劈くが如き有樣なれば、折角の計畫も來會者少數にして一時は悲觀せしが、定刻より三四十分遲れて漸次來會する者あり、意外にも百名內外の多きに達せり。依つて柴田氏は司會者として開會の辭を兼て趣意の發表をなし、規則編成、役員選擧等は委員を擧げて組織に至る迄の一切の權限を其委員に附託する事とし、夫れより演說會を開き、以上の諸氏何れも熱心に弊風打破、社會刷新の爲め快辯を揮ひ、大なる感動を與へたり。尤も滿鐵衞生課長河西博士は急に同夜八時の汽車にて奉天に旅行する事となりしを以て出席する事能はず、豫て抱持する意見なりとて廓淸に對する論文を特に送られたり、依つて司會者之れを代讀し何れも耳を傾けたり。尙同日は東京より左記の役員より左の祝電ありしを以て、更に一層の活氣を加へたり。

一、市民の奮起と支部發會を祝す　會長　島田三郎
一、支部の發會式を祝す　顧問　森村市左衞門
一、滿洲廓淸の導火線となれ　評議員　山室軍平
一、發會式を祝す　副會長　矢島楫子

斯て入會者も續出し、機運は一般に歡迎するに至れり、殊に遼東新報の如きは特に此催の爲め雜報のみならず社說を揭げて贊同し、市民の注意を喚起せり。何れ不日委員會を開き規則を編成し、役員確定する事ならん、其際は一層の勇氣を以て活動し毎月一回宛演說會を催す豫定なりと。此後の活動振りは、其都度報道する事とすべし。(十二月廿四日支部發)

雜纂

遊女考（上）

伊藤江南

遊女の起源は、到底之を詳にする事は出來ない。攝陽軍談に、神功皇后三韓を征して歸朝し給ひし時、長門國より植女を召して農業稼穡の事を世に廣め給ふこの植女後に乳守の遊女となんぬ、是に因りて傾城今に早乙女を勤む云々。又一書に、むかし小松天皇八人の姫君を七道に遣はしめ君の名を留め給ひき、これ遊君の濫觴にして、江口、神崎、室、兵庫などの遊女は皆其末葉なり云々、と云つてゐるが、これ等は元より信をおくに足りない。併し既に、靑丹よし寧樂の都に櫻かざして太平を謳ふた昔に存在た事は萬葉集によつて明かである。

降つては代々勅選の歌集、卽古今集より新續古今集に至るまで、いはゆる二十一代集及諸家の歌集に、いくらも遊女の歌を載せてゐる。源氏物語、大和物語、大鏡、古今著聞集、十訓抄、中右記、古事談、保元物語、平治物語などにも遊女の事は屢〻見へてゐる、其他三善爲康作（異本に大藏卿大江匡房とあり、堀川帝の時の人也）遊女記といふのがあつて、當時の有樣をくはしく叙してゐる。以下漸をおふてこれ等を擧げて見やう。

□□□□

萬葉集、一之卷

長皇子御歌（天武天皇の皇子、靈龜元年六月薨、續記日奈賀親王）

霰打、安良禮松原、住吉之、弟日娘與見禮常不飽香聞

住吉は攝津國住吉郡にして、弟日娘は姉妹の娘で遊女だつたらうと信ぜられる

同

淸江娘子進二長皇子一（姓氏不詳）

草枕、客去君跡、知麻世婆、岸之埴布爾、仁寶播散麻鬼乎

岸は住江の岸で、埴布は和名抄に黃而細密曰レ埴和名波爾とある。古事記に丹摺之袖ともある。古へかゝる色にて衣を摺り色どりしたものであらう。淸江はすみのえと訓む、前の弟日娘女とは別人であらうと思はれる。

同　四之卷

二年乙丑春三月幸二三香原離宮一之時得二娘子一作歌一首並短歌　笠朝臣金村

三香之原、客之屋取爾、珠桙乃、道能去相爾、天雲之、外耳見管、言得問、縁乃無者、情耳、咽乍有爾、天地、神祇辭因而、數細乃、衣手易而、自妻跡憑有今夜、秋夜之、百夜乃長、有與宿鴨

反歌

天雲之、外從見、吾妹兒爾、心毛身副縁西鬼尾、今夜之、早開者、爲便乎無三秋百夜乎、願鶴鴨

聖武天皇二年五月壬申朔乙亥甕原離宮へ幸あり、みかの原は山城國相樂郡で此娘子は紀路の遊女であつたらう。

同　六之卷

冬十二月大宰帥大伴卿上レ京時娘子作歌二首

凡有者、左毛右毛將爲乎、恐跡、振痛袖乎、忍而有香聞

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

倭道者、雲隱有、雖然、余振袖乎、無
禮登母布奈

右大宰帥大伴卿兼レ任大納言一向レ京上道、此日馬駐二水城一顧二望府家一、于時送レ卿府吏之中有二遊行女婦一其字曰二兒島一也、於是娘子傷二此易レ別嘆二彼難レ會一、拭レ涕自吟二振レ袖之歌一

□□□□

まだ此他にいくらもあるが、本集に見へたるは、主に娘子とのみにて明白でないが、あらはに遊行女婦と記せるは下の如きものであらう

同　八之巻

橘歌一首、遊行女婦、（和名抄云、揚氏漢語抄云、遊行女兒、和名宇加禮女、又云阿曾比）

君家乃、花橘者、成爾家利、花乃有時爾、相益物乎

同　十九之巻

遊行女婦蒲生娘子歌一首

雪島、巖爾殖有、奈泥之故波、千世爾開奴可、君之挿頭爾

なほ　同　十八之巻には

多流比賣野、宇良乎許藝都追、介敷乃日婆、多奴之久安會敝、移比都伎爾勢牟

右一首遊行女婦土師

と註してゐる。更に他の撰集を渉獵して見やう。

□□□□

■古今集、離別

源の實が、つくしへゆあみんとてまかりけるときに、山さとにてわかれをしみける所にてよめる。　しろ女

いのちたに心にかなふものならは、何かわかれのかなしからまし

■後拾遺集　釋教

書寫のひじり、結緣供養し侍りけるに人々ふせおくりける中に、思ふ心やありけむ、しばしとらざりければ　遊女　宮木

津の國のなにはのことかのりならぬ、あそひたはふれまてとこそきけ

■詞花集

あづまへまかりける人のやどりて侍りけるが、あかつきに立けるによめる　くゞつなびき

はかなくも今朝のわかれのをしきかないつかは人をなからへて見し

■千載集　戀三

藤原仲實朝臣、備中守にまかりけるとき、ぐして下りけるを、おもひうすくなりて後、月を見て　遊女　戸々

かすならぬ身にも心のありかほに、ひとりも月をなかめつるかな

□□□□

■新古今集　羇旅

天王寺にまゐり侍りけるに、俄に雨降りければ江口にやどをかりけるに、かし侍らざりければよみ侍りける　西行　法師

世の中をいとふまてこそかたからめ、かりのやとりををしむ君かな

かへし　遊女　妙

世をいとふ人としきけはかりのやとに心とむるとおもふはかりそ

この歌は西行法師撰集に面白く其樣を寫してゐるから、左に抄錄する。

すきぬる長月のはつかあまりの頃、江口といふ所をすき侍りしに、家は南北の岸にさしはさみ心は旅人のゆきゝの舟をおもふ遊女のありさま、いとあはれにはかなきものかなと見たりしほとに、冬

な待ちえぬむら時雨のさへくらし侍りしかば、けしける賤がふせ屋にたちより、晴間待つまのやどかり侍りしに、あるじの遊女ゆるすけしきの侍らさりしかば、なにとなく、

世の中をいとふまてこそかたからめ
かりのやどりををしむ君かな

とよみ侍りしかば、遊女うちわらひて

家をいつる人とし見れはかりのやどに、心とむるなと思ふはかりそ

と返していそぎ内にいり侍りき、只時雨のほどしばしのやどをせんとこそ侍りしに、此うたのおもしろさに一よのふしごゝし侍りき、此あるじの遊女は今は四十路あまりにもやなり侍らむ、見めことから、さもあてやかにやさしく侍りき、よもすがらなにとなき事ともかたりし中に、此遊女のいふやう、いとけなかりしよりかゝる遊女となり侍りて、年ころそのふるまひをし侍れども、いとひんなくおほえて侍り、女は殊に罪ふかきとうけたまはるに、此ふるまひをさへし侍りけること、げにさきの世の宿習のほと思ひしられ侍りて、うたてしくりしが、此二三年は、此ころいとふかくなり侍りし上年たけ侍りぬれは、ふつに此わざをもし侍らぬなり云々

とて此女をほめ、其後も歌の贈答をしたことなどが、記されてある。

□ □ □ □

、年山紀聞月月記、建仁三年五月十三日御幸の記に

雨降時々止、巳時參上御向殿、小時遷御、遊女着坐、神崎の妙、すべりて顚倒す

とあるのは思ふに西行法師と問答の妙と同人で、江口から神崎に移り住んだものであらう。

■玉葉集　八

爲兼佐渡國へまかり侍りし時、越後國寺泊と申すところにておくり侍りし

遊女　初君

物おもひこしちのうらのしら浪も、
立かへるならひありとこそきけ

■新續古今集　離別

尾張國に京よりくだりける男のかたらひつき侍りけるに、あすのぼりなんとしける時、しぬばかりおぼゆれば、いくべきこゝちせぬよしいひけるに

傀儡　あこ

しぬはかりまことになけく道ならは
いのちとともにのひよとそおもふ

■萬代集

題知らす

遊女　眞如

あはれなる身のならひかなたれとしも、
たのめぬよはもしたまたれつゝ

會費の納入

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等によりたるが以後はなるべく左の口座により拂込相成度し

振替東京二七〇二番

廓清會本部

さけきらいになる藥

定價　一週分一圓、二週分一圓九十錢、三週分二圓八十錢

たばこきらいになる藥

定價　壹瓶　金五拾錢　送料　八錢

どんな酒、煙草のみでも身體に少しも害なくきらいになり益々壯健になる事保證

●郵劵貳錢送附あれ
說明書及禁酒論進呈

大阪西區靱南通貳丁目電車筋南側

發賣元　森田商店

振替口座大阪貳二壹二六番

生れ月と容貌性格

しらはぎ

左は明治三十九年頃饂か伊藤銀月の著された何とかいふ本の中にあつたものであるが、當時面白いと思つて手帳に書き控て置いたものを基礎として、玆に綴つて見る事にした、當るか當らぬかは保障の限りでない、たゞお正月のお慰みになれば記者の願ひは足る。

□一月生れの男――華美を好み、豪奢を喜び金持ちならば身代をすり減らし、或は紙子姿のギリ〱結着まで落ち易い。愛嬌あつて浮かれ易く、人に馬鹿にされながらも、無くてならぬものにされ、一生涯食ふと着るとには困らない。そして、威厳抜きの美男子が多く、婦人のおもちやに適する。

□同じく女――十中の八九までは にぎやかな美人である。しつけをよくせねばお轉婆の尻軽となつて親の顔に泥をぬるやうな事がある。氣位が高くて青春期を過し、一旦氣がついて身を固めやうとする時には貰ひ手がないといふやうな例が多い。

一般に此の月に生れたものは、男女とも酒を好み、歌舞音曲に器用なのが常である。之れは人の心の浮き立つ四月の花時に孕まれて、世間が新玉の年の始めを目出度がつて騒いでゐる時に生れ落ちるから、天然と人事と父母の心情との感化によつて、右に述べたやうな傾向を帶びるのである。

□二月生れの男――引込み思案にして、物事愼み深く至つて眞面目に賴もしげに見え、老人の氣に入り易くて、よく娘の婿になどと望まれる。しかし、貰つて見れば案外のなまけ者で、無精でグズで、腑甲斐なしで、寢て食ふ事ばかり考へ、その癖怒ツぽくて、グツグツと煮え切らぬ理窟をこねる。容貌は美男といふまでゝなくとも、優男と云はれるもの多く、よく厭世觀を起して、一人心中などするのは此の月に生れた男の特徴である。

□同じく女――娘としても妻としても、唯だしほらしくおとなしく、容貌もそれに相應して、大勢の中では人目につかぬけれども、よく見ると趣きが深い。或る者は見向きもしないが、或る者には非常に慕はれるといふ風である。

これは、湯のやうな風が吹いて、體はだるく氣は重く萬事が物うくて堪らぬ五月に孕まれ、身を切るやうな寒風が吹きあれ、體も心も縮まる二月の、しかも浮かれまはつた正月の反動で父母の心の沈み勝ちな時に生れるからである。

□三月生れの男――血色よく、身體の發育も立派で、氣分が快活で多能であるが、兎角心定らずして氣が移り易く、表面は强味があるけれども底は半熟の卵のやうで、大事な場合に臨むと、案外腰が弱く、見苦しい態をする事がある。野心多く、慾望熾なれど、その割合に成功の遲いのは之れが爲めである。

□同じく女――眞の美人は此の月に生れたものが多い空想に富み、氣位高く、男など傍へも寄せつけぬやうに見えて、其の實、心は案に相違して脆いのが常、しかし世間には皮層しか見えない者が多いので、いつしか花の色徒らに移つて、あたら美人に小町の嘆を懷かしめるのである。幸ひに早く人の妻となつたならば良人を貧に陥らしむるやうな事は有り勝ちなれど、その外にはあまり婦徳に於て缺けるやうな事はなからう。

これは、蒸し暑く雨の多い六月に孕まれて、春はこれからといふ氣に張りのある時生れるからである。

□四月生れの男――馬鹿者多く、心も姿も共に締りないけれども、まれには絢爛人目をくらますやうな大天才の現はれる事がある。

□同じく女――流行を逐ふて花柳界の風を模することを好み、物遊見山と顔のよい異性とを好み、何の主張もなく、唯だ空々漠々と生を送り、其のくせ、贅澤であるといふのだから、やかましい姑のある家へは行かれまい。

これは、晝は睡く夜は寢られぬ七月の暑さ盛りに孕まれて、何となく氣の浮き立つ花時に生れるからであらう。

□五月生れの男――沈鬱にして底に猛烈の氣を包んでゐる者が多く、やゝもすれば大酒にして、飲まぬ時は猫の如くやさしいが、醉へば虎の如くあれるのである容貌は鈍くして眠るが如く、疲れたやうな聲でものを言ふ。詩人や文學者や、革命家などは即ち此の性格で一旦激昂した時は、平生の遲鈍沈鬱とは打つて變つて猛烈無比、何ものも之れに當る事は出來ないといふやうになる。つまり一種の狂的精神をもつてゐるからである。

□同じく女――肥え太つて白豚の如く、人に數へられた通りに挨拶すること丶、數限りもなく子を生むことのみを知つて、其の他は我關せず焉と濟ますといふ風のものが多い。

これは八月の炎天に孕まれて、からだのだるく氣の重苦しい時に生れるから碌なものは出來ない譯である

□六月生れの男—見るからになまけ者らしく、無頓着者らしく、着物の着やうもだらしなく、一向要領を得ぬ事ばかり云ふこと、云つても捉へどころない人に嘲罵されても唯だニヤ〳〵笑つてばかりゐるといふのが其の平常であるが一旦眞面目になると、一心不亂にやり遂げぬうちは如何なる障害が起つても挫折せぬ。俗物からは馬鹿扱ひにされるけれども、その實は馬鹿でないのである。名人肌の男が多い。

□同じく女—男のやうな容貌をそなへ、洒落をいふ事がうまく、大口を利く事を好んでゐるが、その癖、心は割合に細かく、損得の勘定に明かであるから、待合か料理屋の女將などには適當である。

　これは、新涼肌に快く、燈火親しむべきの候に孕まれて、六月の濕氣のやうな空氣の中に生れるからである。

□七月生れの男—思ひ切つて男らしく、厳めしき容貌をしてゐて、心も快活、豪邁であるけれども、しかも粗放に流れず、實質固くしまつて、物に當る事強く鋭く、物を壓する事が寛く、從つて人を畏服せしめ人に信任せられる。けれども、その弊は片意地にして因業に傾き、人を恨み人を憎むと共に、人にも恨み惡まれて、それが爲め思はぬ災難を受ける事がある。

□同じく女—容貌豐頬にして、鋭氣外にあらはれてゐる。自ら任じて事を爲したがり、やゝもすれば出シヤ張る弊がある。それ故、人に誤解されて、恐ろしき女として取扱はれるやうな事もあるが、底には何の毒もなく、案外無邪氣で、見かけによらぬ臆病者が多い。されば、たとひ驕婦とは言はれるかも知れぬが毒婦とか惡婦と云ふ譯には行かない。

　これは、實れる秋の十月に孕まれて、梅雨晴れのはげしく照りつける烈日の下に生れたからである。

□八月生れの男—面に豪氣ありて裡に柔情を包んでゐる。世事に熱中しながらも、底に潛んでゐる厭世觀はやむ時がない。商人ならば算盤珠を彈きながら發句を考へるといふ風だし、相撲取ならば、他に申し分はないが、足が少々あぶない。丈夫に見えても見かけほどには頼もしからぬのが多い。容貌は尋常にして、よくも惡くもない。

□同じく女—人の妻として先づ其の任務には堪へる方である。泣言をいひ、しかめ面をしながらも自分の爲すべき事は爲し、守るべき事は守つて、家事、育兒に孜々として倦まぬのが常である。容貌は、餘り惡くもないが愛嬌には乏しい。

　これは、野山が霜葉に裝はれながら、見る〳〵彩色を減ずる十一月に孕まれ、炎天の底に立秋の風吹きそめ、何となく蕭條の氣の天地に充ちた月に生れるからである。

□九月生れの男—容貌俊爽にして、多血多感、俠骨義氣に富み、豪傑の風格がある。けれども修養その道を得ない時には、徒らに張子の虎のやうな看板的豪傑となつて、一時はワイ〳〵連に舁ぎ上げられるけれども、間もなく打棄てられ、踏みつぶされ、世の物嗤ひの種となる。

□同じく女—常に嬉しげに且つ忙しげに見えて世話好きに、口數多く、そゝつかしきものが多い。容貌は餘り美しくはないけれども愛嬌があつて、多くの人にもてはやされる。好んで人の緣談の取り持ちをするけれども、人は我が爲めに嫁入口をさがしては呉れずたま〳〵その問題がもち上つても、「あれか」と云つて笑ひ消されるが常で、得なやうで損な性分である。

　これは、新年を前に控へて、押詰つた十二月に孕まれ、秋高く馬肥ゆる月に生れたからである。

□十月生れの男—人の頭となるべき資格をそなへてゐる。活氣にかれるに智慮を以てし、小兒のやうに無邪氣なりと見えても、底には中々食へぬところがありいろ〳〵の複雜な性格をもつてゐて、萬般の事物に應ずる事が出來る。人生を遊戲と觀じて、時々突飛な行ひをなし、物を打壞はして獨り嬉しがる風があるその爲めに不利を招くことがある。けれども毫も悔ゆる色なく、人から頭に推されても煩はしさを厭うて之れを避けるといふ風變りである。容貌は誠實と潔白を表して、美しくはないが、人を引きつける力をもつてゐる。殊に其の眼は鏡面のやうに明かで、一毫も蔽はず心に思ふ所を映し出す。

□同じく女—端正にして豐艶なる顏をしてゐて、愛嬌と威厳とを二つながらもつてゐる。娘としては父母の家の光彩となり、妻としてはその家庭を王國の如く莊嚴ならしめる。

　これは和樂多く希望にみちた正月に孕まれ、米穀充實する十月に生れ、天然と人事とが共にその子を祝福するからである。

□十一月生れの男—質實にして思慮周密、容貌は愚かなやうであるが、數理に通じ、經濟に明かで、工夫とか發明とかに通じてゐる。妻を迎へるにも其の顏や姿を取らずして貞淑にして虚飾なきを選ぶ。外貌瓦の如くにして實質金のやうな多くの子をまうけ一家益々繁昌する。律氣者の子澤山とは之れである。けれども頑迷固陋にして人生の眞味を解し得ざるものも多い。

□同じく女—貞淑にして儉素、不平なく、非望を起さず、貧しくてもこぼさず、富んでも鼻にかけぬ。終始一日の如く家事に精を出して倦まぬ。容貌は多く醜くして手足が下女のやうに太く荒い。同月生れの

男に嫁ぐに適してゐる。

これは正月は旣にすぎ、長閑なる三四月にはまだ間があり、唯だ寒氣と勞作とのみある二月に胎まれて收穫旣に終り、何もなき野山を木枯の吹き荒ぶ十一月に生れ、腹の中で萌え出る時より枯れる時までの一期を經過したからである。

□十二月生れの男――活潑にして能く働き能く發す。容貌は凛として男らしく、笑顏に云ふに行はれぬ美しさと愛嬌とがある。しかし、よく策しよく行ふ割合に遺算が多く、目論見ちがひの事が度々で失敗なかされ氣の毒なる場合が多い。

□同じく女――瘦せぎすの淸楚なる別嬪多く、氣性者にて、大抵の良人は尻にしかれるだらう。家政をとる事が拙く、目に見えぬ失費のみ重つて、之れを女房にもつ男は厄介此の上ない。その癖、娘のうちには、あれが丸髷を結つて世帶を切りまはす樣子が見度いなどと云はれるが常である。

これは、三月の春やゝ樂しからんとする時孕まれ、年末押しつまつて市の賑ふ時に生れるからである。

名流の年齡

大隈重信(七八)
加藤高明(五六)
若槻禮次郎(五〇)
岡市之助(五六)
八代六郎(五六)
尾崎行雄(五七)
一木喜德郎(四八)
大浦兼武(六六)
武富時敏(六一)
波多野敬直(六六)
横田國臣(六六)
平沼騏一郎(四八)
仙石貢(五九)
伊澤多喜男(四六)
久保田政周(四五)
阪谷芳郎(五三)
寺内正毅(六四)
佐久間左馬太(七二)
中村覺(六二)
山縣伊三郎(五九)
白仁武(五三)

内田嘉吉(四九)
德川家達(五三)
曾我祐準(七三)
目賀田種太郎(六三)
加藤加之(八〇)
伊藤巳代治(五九)
高島鞆之助(七二)
大木遠吉(四五)
秋元興朝(五九)
後藤新平(五九)
原敬(六〇)
奥田義人(五六)
大岡育造(六〇)
元田肇(五八)
岡崎邦輔(六二)
犬養毅(六一)
大石正巳(六一)
島田三郎(六四)
河野廣中(六七)
箕浦勝人(六二)
花井卓藏(四八)

田川大吉郎(四七)
山川健二郎(六二)
高田早苗(五六)
鎌田榮吉(五九)
杉浦重剛(六〇)
北條時敬(五七)
宮田脩(四二)
手島精一(六七)
成瀨仁藏(五六)
眞野文二(五五)
佐藤昌介(六〇)
大内青巒(七一)
田尻稻次郎(六六)
三浦謹之助(五二)
福田德三(四二)
北里柴三郎(六四)
内藤湖南(五〇)
井上哲二郎(六一)
丘淺次郎(四八)
大森房吉(四八)
三宅雄二郎(五六)

高峯讓吉(六二)
白鳥庫吉(五一)
佐藤三吉(五九)
幸田露伴(四九)
浮田和民(五七)
安部磯雄(五一)
向軍治(五一)
山室軍平(四四)
海老名彈正(六〇)
竹田默雷(五六)
大谷光瑞(三九)
下田歌子(六二)
跡見花溪(七六)
矢島楫子(八二)
澁澤榮一(七六)
大倉喜八郎(七九)
安田善次郎(七八)
森村市左衛門(七七)
岩崎久彌(五一)
中野武營(六八)
服部金太郎(五六)
武藤山治(四九)
和田豐治(五五)
大橋新太郎(五三)
早川千吉郎(五三)

福澤桃介(四八)
松方幸次郎(五一)
三島彌太郎(四九)
近藤廉平(六八)
益田孝(六九)
朝吹英二(六七)
小野金六(六四)
鄕誠之助(五一)
日比谷平左衛門(六八)
池田謙三(六二)
土居通夫(七八)
片岡直輝(六〇)
片岡直溫(五七)
住友吉左衛門(五二)
藤田平太郎(四七)
久原房之助(四七)
岩下淸周(五九)
井上準之助(四七)
内田魯庵(四八)
坪内逍遙(五七)
森鷗外(五六)
夏目漱石(四八)

島崎藤村(四四)
德田秋聲(四五)
松居松葉(四六)
泉鏡花(四三)
正宗白鳥(三六)
塚原澁柿園(六八)
德富蘆花(四八)
與謝野晶子(三七)
德富猪一郎(五二)
黑岩周六(五三)
石河幹明(五七)
淺田江村(四一)
本多雪堂(四五)
三浦鐵太郎(四一)
三浦環(三二)
島村抱月(四五)
東儀鐵笛(四八)
河合武雄(三八)
喜多村綠郎(四五)
中村歌右衛門(五一)
市村羽左衛門(四二)
尾上菊五郎(三一)

大正四年一月十四日納本　一部定價金六錢
大正四年一月十五日發行（每月一回十五日發行）

神田區今川小路一丁目三番地
編輯兼發行人　伊藤秀吉

神田區三河町一丁目十四番地
印刷人　小林照雄

神田區三河町一丁目十四番地
印刷所　丸利印刷所

神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所　廓清發行所

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

This objection is everywhere being increasingly felt. Owners object to the depreciation of their property. "No one wants the brothel in his own neighbourhood." "Every one who favours Segregation wants it in the other man's neighbourhood." The common people object. In Frankfort, an attempt recently made on segregation lines to localise licensed brothels in a certain street aroused a storm of indignation, and was abandoned by the authorities. In these days only the dregs of the population will fail to resent the insult and degradation of having the district in which they dwell stigmatised as a "segregated area."

The Children.

Such an area often teems with children. "It exposes to moral contagion those who are already most imperilled and whom every consideration of interest and decency should impel Society to protect—the children of the poor. For the segregated quarter will ineviltably be located where rents are low and where the neighbours have least influence" (Flexner, *Prostitution in Europe*, New York, 1914, p. 176). It must, in fact, be located where parents are least likely to complain—*i,e.*, where moral training is already deplorably neglected, and where children, born and bred in an atmosphere of vice, would be well-nigh foredoomed to crime and prostitution.

Vice Advertised and Commercialised.

"Segregation" advertises vice. The "Red Light" district is one of the sights of the city, and many a youth owes his first fall to a stroll through a "segregated area," with its irresistible temptations.

Segregation facilitates the commercialising of vice. It recognises brothel-keeping as a legitimate trade, in which capital may be righteously invested and a section of the community—numerically considerable and morally vile—is encouraged to make a profit out of prostitution and out of the liquor consumed in brothels. It creates vested interests in the stimulation of de bauchery.

Corruption.

"Prostitution is treated as inevitable; it is authorised and 'regulated,' on the ground that men will indulge. And yet 'the morals-police' who are closest io it are expected to hold aloof. Women are exploited by pimps, by liquor dealers, by brothel-keepers; yet Regulation (including Segregation) assumes that the 'morals-police' who are every moment in a position to sell favours, exemptions, and privileges will refrain from doing so" (Flexner, *op' cit.*, p. 370).

Bribery and blackmail are rampant in these areas. Obviouely no one lower than an archangel can be expected to retain his integrity in such surroundings. "Red Light" districts have been notorions factors in the corruption of American politics.

Segregation does not Segregate.

Segregation is a surrender. By admitting inability to cope with the greed, violence and fraud that are always lying in wait to exploit prostitution, by giving municipal recognition to pimps and pandars—licensed brothel-keepers are such *ex officio*—by assigning them a stronghold for their operations, by concentrating kindred iniquitles, and thereby facilitating their unholy alliance against Society, the community that adopts segregation makes an ignominious compact which courts failure. The mischief breaks bounds. Vice persists in overflowing from the "segregated area," The tolerated plague-spot infects the city. One charge made against segregation, and justified by abundant evidence from many quarters, is that segregation cannot accomplish its immediate purpose of localising debanchery. Hence the remark so often made—especially in America—that "segregation does not segregate."

From The Shield.

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

3 — 40

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. V January. 1915 No. 1.

CONTENTS.

How to stand this year. Eeditor.
A looking back of last year. President. S. Shimada.
In the bigining of this year. O. Miyata.
From formalism to complete life. M. Miwata.
Misleading eriticism on public Morals. Dr. H. Kato.
Extermination of prostitutes. Dr. Fujikawa.
Consider the general aspect of affair. Rev. K. Tsunajima.
New year and our culture. Col. G. Yamamuro.
An inquiry on the history of prostitution. Editor. H. Ito.
"Birth month" and Physiognomy.
Purity movement in Manchuria.
Two Untrustworthy police offices. Y. Tateishi.
Review of Reviews.

SEGREGATION

It is not vice, as vice, which is thus mighty; but systematic vice! S. T. Coleridge.

"Segregation" is that form of "Regulation" which attempts to restrict prostitution to certain parts of a town known as "segregated areas."

Where openly adopted, the local authorities forbid brothels in certain neighbourhoods, in which wealthy residential quarters are always included. The districts in which brothels, not being forbidden, are licesed are, naturally, in the poorer and less influential wards.

It is easy to have the thing without the name. Years ago, an English chief constable reported that in order to localise brothels "in neighbourhoods where they cause the least possible harm," proceedings were taken against brothels when "they were opened in a respectable street or leading thoroughfare." The brothel-keepers soon learnt the lesson that they had little to fear so long as they confined their operations to certain areas, where they were virtually licensed.

Segregation has been handed down to us from the Middle Ages. It has been widely abandoned as a failure in Europe. It survives in America and the Far East. The "Red Light" districts of Chicago and the *Yoshiwara* of Tokio may be mentioned as notorious examples.

The first objection to Segregation is that by accepting the traditional maxim that prostitution is a necessity, it adopts two standards of morality. It does so in two senses. It has different standards for the two sexes. It also has different standards for the different parts of a town—one standard of morality, public order and obedience to law for reputable, and another for non-reputable districts. Brothels are prohibited here and licensed or winked at there. Instead of being uniformly and impartially enforced, the law is made subject to the arbitrary discretion of the police, and a compact is made with brothel-keepers that, so long as they do not trespass on the protected areas, they shall not be prosecuted. Thus, instead of the licensed brothel, we have a licensed brothel area, *i.e.*, licensed brothel-keeping writ large.

"The Slum."

Obviously this policy must defeat that elimination of the "slum" at which all progressive communities are aiming. It sanction conditions in which decent, orderly and self-respecting homes are out of the question, perpetuates the worst evils of derelict areas, and makes their moral sanitation impossible.

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

院長診察、月、水、木、金午前、入院隨時

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

謹迎新年

祈會員諸兄姉之清福

大正四年一月

廓清會本部役員

	評議員 徳江亥之助	評議員 牧野寅次
顧問 大隈重信	同 長田時行	同 福島四郎
同 森村市左衛門	同 緒方鉎次郎	同 小林富次郎
會長 島田三郎	同 小河滋次郎	同 小崎千代子
副會長 矢島楫子	同 大倉文次	同 江原素六
同 安部磯雄	同 加藤弘之	同 安藤太郎
理事 伊藤富士雄	同 加藤直士	同 齋藤壽雄
同 西村勘之助	同 高木貞衛	同 佐島啓助
同 内ケ崎作三郎	同 根本正	同 湯淺治郎
同 山本邦之助	同 名出保太郎	同 湯淺豊太郎
同 山田彌十郎	同 中津親義	同 宮川經輝
同 松宮彌平	同 浮田和民	同 三輪田元道
同 益富政助	同 植村正久	同 三並良
同 小松武治	同 鵜崎庚午郎	同 日向輝武
同 寺田四郎	同 栗原基	同 平岩愃保
同 油谷治郎七	同 山室軍平	同 平沼淑郎
同 宮田脩	同 松浦有志太郎	同 元田作之進
評議員 林歌子	同 松村介石	同 角倉賀道
同 原田助	同 増田義一	同 角谷和市

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

救世軍大佐 山室軍平先生著

社會廓清論

定價壹圓
(郵税八錢)

日本を世界の青樓國たる汚辱より救はんものは、公娼廢止の一擧にあり。公娼は男子不品行の公許にして、又婦人貞操切賣の公認なり。檢黴は衛生學上の欺瞞にして、娼妓は梅毒の傳播機關なり。人身賣買を營業視する日本人の實業道德は皆無のみ。娼妓は昔ながらの奴隷なり。貸座敷營業者は奴隷賣買業なり。奴隷公許か、公娼全廢か、二者其一を擇はざる可らずとは、著者が從來の主張なり。本書は廓清會の同人と共に取調べたる內外遊廓制度の研究を經とし、救世軍にて救濟したる數百の不幸なる女性の實歷を緯とし、公娼廢止が刻下の急務たるを論じて、其善後策に及び、併せて藝妓、海外醜業婦の處置を說く。是れ實に、壓へられたる弱者の解放を迫る人道の叫聲にして、腐敗したる社會の廓清を促がす一大烽火なり。

山室軍平氏著 ＝公娼全廢論＝ 定價拾錢 郵税貳錢

發兌 東京尾張町 東京橋 警醒社書店 振替東京 五五三番

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正四年一月十四日納本）（毎月一回十五日發行）

最近市内の有力なる小賣店の報告に曰く
クラブは一番品が良いので

歯磨モ　白粉モ　洗粉モ

近來クラブばかりが
賣れて居ります

クラブは一番品が良いから
近來面白い様に賣れて居ります